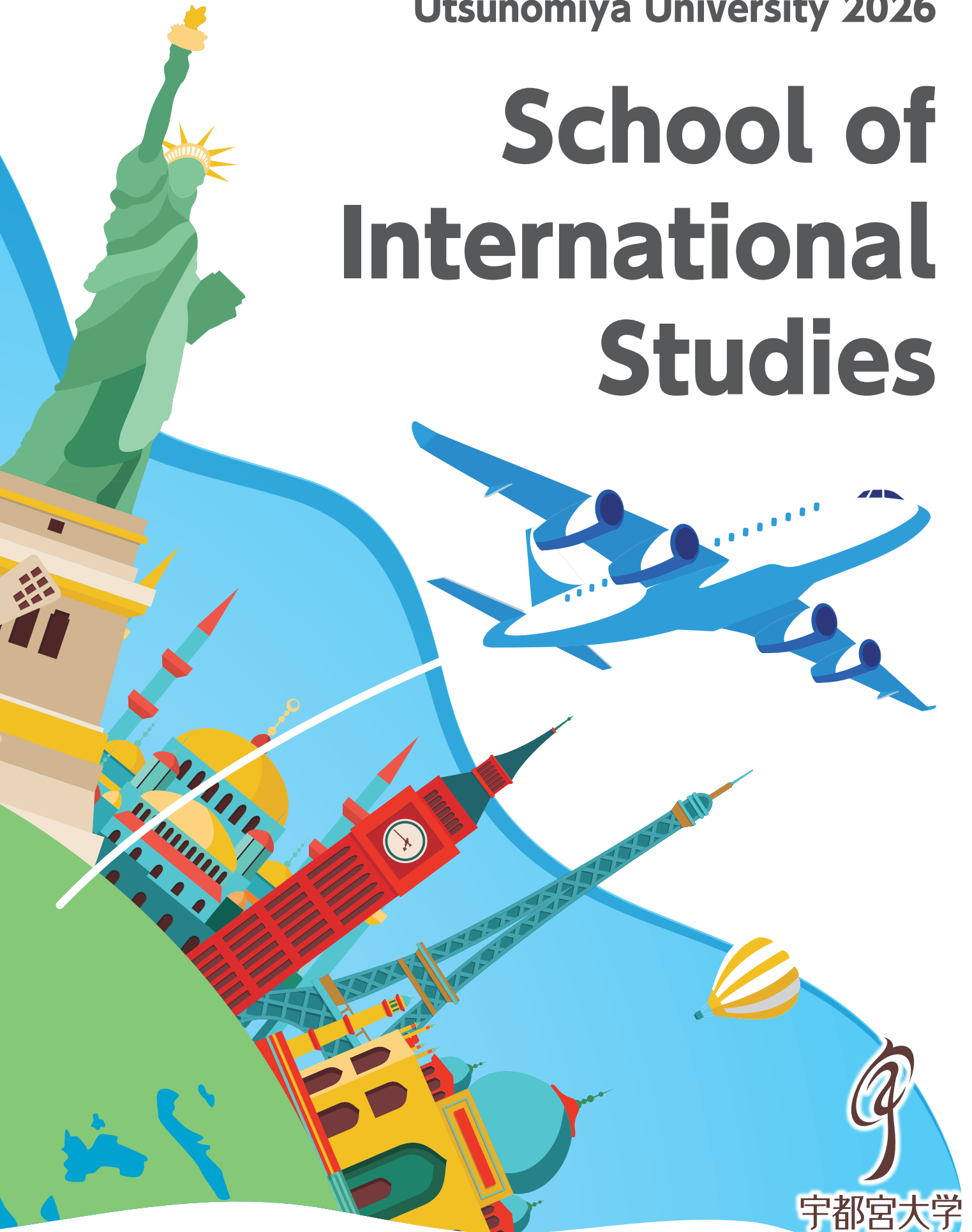


Utsunomiya University 2026

School of International Studies



宇都宮大学
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

国際学部

新たな世界、新たな出会い、新たな学び…

ここで過ごす時間は、君が描く将来の夢へとつながっています。



Contents

国際学部に関心をお持ちの皆様へ 04

01 国際学部概要

アドミッションポリシー 05

プログラムの概要 05

国際学部国際学科の学位授与の方針 05

教育のプログラム 06

学部の専門科目 07

国際キャリア教育プログラム 08

外国語臨地演習 09

宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター 10

教員紹介 12

国際学科 12

留学生・国際交流センター 16

国際学部新書 17

宇都宮大学国際学叢書 17

02 キャンパスカレンダー 18

03 留学情報

協定校紹介 19

留学体験談 20

04 国際学部学生紹介

学生紹介 22

学生活動紹介 24

05 卒業後の進路

取得可能な資格等について 26

進学情報 26

就職情報 27

06 アクセス 30

Road to the Dream

国際学部に関心をお持ちの皆様へ



今だからこそ、 国際学部で学ぶ意味を考える

国際学部長 中村 真

宇都宮大学国際学部は、人文社会科学を中心とした「学際的学び」、「複数外国語の修得」、「国際実践力の養成」の3点を柱として教育を行ってきました。学際的学びを通じて、複雑なものを安易に単純化するのではなく、ありのままに捉え、多面的に分析し、総合的に考える力を養います。複数外国語の修得については、多くの皆さんが大学入学までに学んできた英語に加えて、フランス語、中国語、韓国朝鮮語、スペイン語から少なくとももう一つの外国語を学修することにより、世界の様々な人たちの考えの基盤にある言語の違いや共通点を、実感を持って認識する機会を提供しています。学際的な学びに加えて、複数の外国語を学ぶことは、世界が一樣ではなく、同じ物事や出来事を異なるものとして捉え、考える人たちがいることに気づく機会になるとともに、共通点を知ることによって、そのような異なる背景を持つ人たちとどのように接し、協力していくかを考えるための大切な基礎になります。また、外国語の修得には時間と地道な努力が必要です。外国語を学修することは、皆さんが大学を卒業した後、生涯にわたり、自律的に新たな学びを続けていくための大事な力を養うことにつながります。このような自分で学ぶ力をつけることは、生成AIが活用される今だからこそ、一層重要になります。

さらに、コミュニケーション能力を含む国際実践力養成のために、国際学部では、交換留学などの国際交流体験を支援するとともに、国際学部で学ぶために入学してきた海外からの留学生、日本国内に生活している外国にルーツをもつ学生、国内の様々な地域から集まった多様な学生や社会人学生が集い、ともに学ぶ場を提供しています。国際キャリア教育プログラムでは、国内外の課題や問題に対応し、その解決のために考える作業を通じて、キャリア形成に結びつけることをテーマにしています。このプログラムには、海外交流協定校の学生たちもオンラインで参加し、国際的学びの場を作り出しています。言語も文化的背景も異なる人たちとの交流と協働作業を通じて、課題対応のための国際実践力を養うことができます。また、部附属多文化公共圏センターでは、これらの3つの教育の柱を研究や社会と結び付けつつ、実社会と連携して活動する様々なプロジェクトが、活発に行われています。これらの具体的な内容は、このパンフレットや国際学部のHPにおいて詳しく説明されていますので、ぜひ参照してください。

さて、ロシアのウクライナ侵攻から4年が経過し、2026年を迎えてからはアメリカやイスラエルも、国際法をないがしろにするような武力による現状の変更を繰り返す事態となりました。将来を予測することがこれまで以上に難しい国際情勢や社会状況になり、不安を感じている人は少なくないでしょう。国際学部での学びは、このような複雑で先を見通すことが難しい今だからこそ、これまで以上に重要になります。このような状況では、必ずしも一つの正しい答えがあるわけではありません。物事を単純化するのではなく、ありのままに捉え、多面的に考えることが重要となります。海外との交流が途絶えることがない以上、複数の外国語を理解し、運用する力は、海外の多様な人びととの交流のハードルを下げ、さらに、実践的な学びが、このように多様な人たちとも積極的に付き合い、ともに仕事をするを可能にしてくれます。このような力は、国の内外を問わずすべての国や地域で、またあらゆる職業に共通する重要な要素です。

国際学部は、1994年の設置以来、3300人を超える卒業生を送り出してきました。卒業生たちは、国際的機関や組織、団体、さまざまな企業、メディア、国や地域の公務員や教員、など、国内外のあらゆる分野、職業で活躍しています。また、将来を見据えて、さらに専門性を高めるために大学院に進学する人も増えています。複雑で、予測することが難しい社会であるからこそ、そこで活躍するために、みなさんにも、是非、国際学部で学んでもらいたいと思います。

01 国際学部概要



アドミッション ポリシー

求める学生像

- ① 高等学校教育課程の総合的学力を基礎とした広く基本的な知識を持ち、外国語の運用能力と、論理的な作文能力を備えている人
- ② 多文化共生社会に関する問題について主体的に探求し、学修意欲に優れ、多様な現象について論理的に考え、思考と感性を表現することに適性をもっている人
- ③ 学修経験や国籍に関係なく、国際的な問題に高い意識を持ち、それらを論理的に論じることのできる能力を持っている人
- ④ 多様な外国語や情報収集・分析・発信の方法を学び、多様な地域や文化を背景とする人々とコミュニケーションをとりたいと思っている人
- ⑤ 多様な地域・文化を背景とする人々の存在に目を向け、共に学びあいながら、共に生きていく社会について考えたいと思っている人
- ⑥ 世界の様々な国と地域に関心を持ち、グローバル化する地域と世界の多文化共生のために自分の力を活かしたいと望んでいる人

プログラムの概要

国際学科では、グローバル化する地域の現状と課題を多文化共生の視点から読み解き、社会を構想していく能力やコミュニケーション能力、行動力、協調性を備えた、グローバルな実践力をもつ人材の育成をめざしています。

国際学部国際学科の学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

宇都宮大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、国際学部国際学科では、「宇大スタンダード」に定める汎用的能力と、以下のような専門分野に関する知識・技能を獲得した学生に「学士（国際学）」の学位を授与します。

- (1) 世界の様々な国や地域におけるグローバル化と多文化共生に関する現状と課題についての知識を有し、それらの問題構造を理解することができる。
- (2) 多文化共生社会における諸課題について、その問題構造を踏まえつつ、異なる立場の人々への想像力や共感を土台として、学際的・多角的・専門的に考察し、価値選択や目標設定を行うことができる。
- (3) 世界の様々な国や地域で活躍する基盤としての複数言語運用能力とコミュニケーション能力を備える。さらに自らの設定した課題に関する資料・データ・文献を収集し、適切な方法を用いて比較考察的・批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えて研究成果を文章化し、また口頭で発表して生産的に議論し、課題解決のために実践的に行動することができる。
- (4) 異なる文化や社会のあり方を尊重しつつ、21世紀型グローバル人材（グローカル人材）としてグローバル化する地域と世界の問題解決に積極的に関わることができる。

定 員

- 国際学科 入学定員 84名
 - 一般選抜（前期）38名 推薦36名 社会人若干名
 - 帰国生2名 私費外国人留学生5名 外国人生徒3名
- ※第3年次編入学を実施しています。

教育のプログラム

グローバルな実践力を 身につける 教育システム



多文化共生実現のために国内外で活躍する 21世紀型グローバル人材

①

多文化共生のための
専門的知識を体系化

国際関係論

異文化間
コミュニケーション

Global Civil
Society

②

コミュニケーション能力と
海外での行動力の養成

国際キャリア教育

International Career
Seminar

③

多様な外国語運用能力の強化

外国語能力強化プログラム

International
Communication Seminar

Foreign Language Learning
and Communication

海外での学習

グローバルAL演習(海外体験)
海外フィールドワーク演習
国際キャリア実習

国際インターンシップ
外国語臨地演習(短期海外留学)

学べる外国語

Foreign languages you can learn

英語・フランス語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・
ドイツ語*・ロシア語*

※英語に加えて、フランス語、中国語・韓国朝鮮語・スペイン語のうち1つ
を初修外国語として選んだうえで、希望者は*印の付いた外国語も学習
できます。



学部の専門科目

基礎科目

多文化共生コア科目

国際関係論
異文化間コミュニケーション
Global Civil Society

多文化共生基礎科目

Comparative Study of Culture 言語学
文化人類学 芸術文化論 国際法 国際政治論
国際経済論 国際社会論

国際キャリア教育科目

国際キャリア教育 国際キャリア実習
International Career Seminar
International Communication Seminar
海外フィールドワーク演習

専門外国語科目

英語

Foreign Language Learning and Communication
English for Current Events
Academic English Writing
Presentation and Discussion
Directed English Reading
Directed English Writing
外国語臨地演習

初修外国語

専門基礎A 専門基礎B 講読 文章表現 会話
(フランス語 中国語 韓国朝鮮語 スペイン語)
外国語臨地演習
(フランス語 中国語 韓国朝鮮語 スペイン語 ドイツ語)
外国語特別演習(ドイツ語 ロシア語)

地域研究系

グローバル専門科目

民族誌学 アジアの歴史と思想
近現代中国論 中国文化論
中東地域研究 フランス文化論
イギリス文化論 イギリス文学史
アメリカ文化論 アメリカ文学史
Introduction to Latin American
Studies
Latin American Politics and Society
日本文化論 日本史概説 日本語史
Japan's International Relations
地域社会論 地域福祉論
社会福祉学概論 地方自治論
地域研究専門研究(海外体験)

専門演習・実験・実習科目

Seminar in Latin American Studies
中国文化論演習
中東地域研究演習
日本文化論演習
アフリカ論演習
民族誌学演習
地域社会論実習

異文化理解・ コミュニケーション系

グローバル専門科目

哲学概論 表象文化論
国際事象の実証分析
Cultures of the English-Speaking
World 公共政策入門
行政学 社会調査法入門
観光概論 観光地理学
世界の歴史と文化
Phonetics and Phonology
Learning a Different World
through English
英語学特殊講義A
英語学特殊講義B
日本語論 対人コミュニケーション論
異文化理解・コミュニケーション専門研究(海外体験)

専門演習・実験・実習科目

Seminar in Comparative Study
of Culture
表象文化論演習
言語学演習
日本語論演習
アメリカ文化論演習
イギリス文化論演習
フランス文化論演習
英語文学演習A1
英語文学演習B1

国際協力・共生系

グローバル専門科目

Theory of Global Governance
環境と国際協力 国際協力論
途上国経済発展論
グローバル化と外国にルーツをもつ子ども
の教育
Intercultural Education
International Humanitarian Law in
Theory and Practice
アフリカ論 ジェンダー論
多文化共生教育 人の国際移動
International Protection of Human
Rights
国際機構論
地球環境政策論 ミクロ経済学
マクロ経済学 財政学
Disaster Studies
国際協力・共生専門研究(海外体験)

専門演習・実験・実習科目

Seminar in Global Governance
環境と国際協力演習
多文化共生教育演習
国際社会論演習
国際協力論演習
国際関係論演習
国際法演習
国際政治論演習
国際経済論演習
Seminar in Disaster Studies

卒業研究関連科目

卒業研究準備演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

国際キャリア教育プログラム※

「グローバル人材」として活躍する道を見つけるためのプログラム

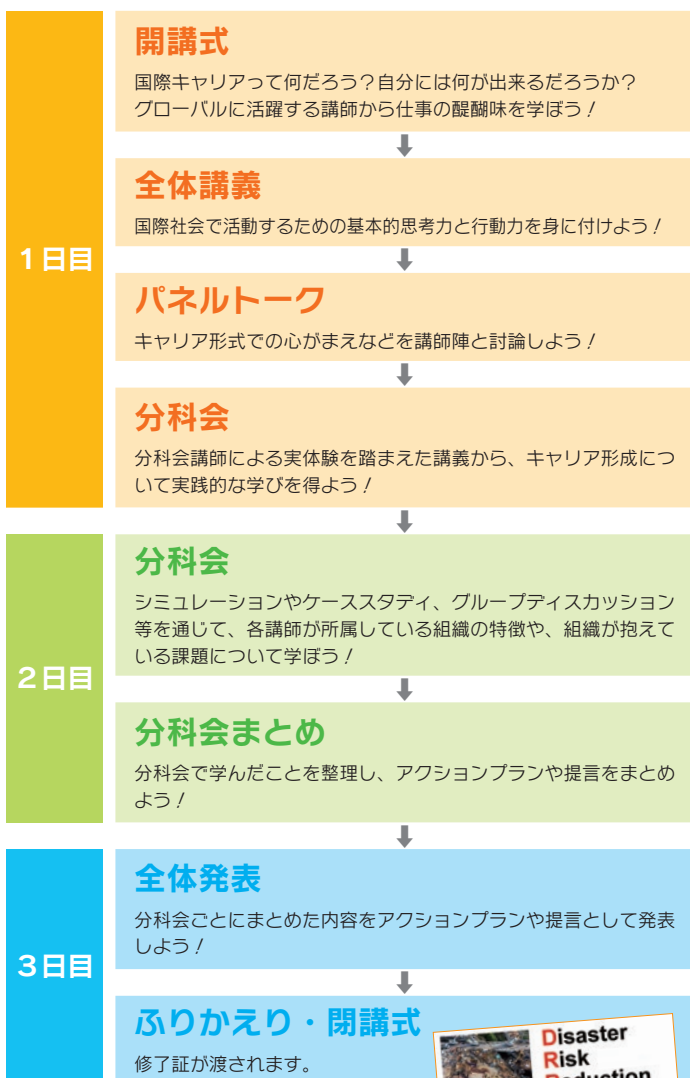
確実に目標に近づくために必要な能力を身につけ、世界へのキャリアパスを獲得しよう!

国際分野の第一線で活躍する講師を招き、国際的な仕事の意義や必要な知識を考えます。

分科会では実際の仕事を模擬体験したり、問題を発掘し、その解決方法を考えます。国際社会にアプローチし、キャリア獲得に至る具体的な道すじを明確にしていきます。



「国際キャリア教育」の場合 3日間の集中授業



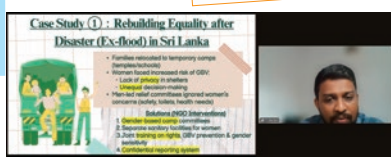
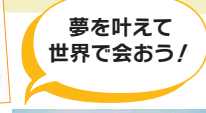
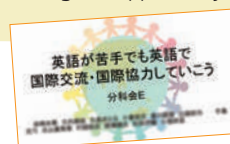
参加学生達の体験談

Comments

- 今後のキャリア形成に向けて必要な心構えや大学生のうちやるべきことを学べ、参加して本当に良かった。
- 3日間仲間と一緒にテーマについて深く議論し、充実感、達成感で一杯である。学びを今後の大学生活にいかしていきたい。
- 何より講師の方々のリアルな話を聞けたことで、今後生きていく上でのあり方が参考になった。
- 多数の人が同じ問題を考えるにしても、同じ意見は一つもなくて、考え方や見方が沢山あるということを実感し、物事を多面的に、様々な立場から見たり、考えたりすることの大切さを学べた。



- It was an excellent opportunity to communicate on an international platform and engage with participants having different backgrounds to develop our skills related to international careers.
- I got useful ideas for my international career. It was a challenge for me to work with lecturers and group mates by communicating in English.
- I learned a lot of important things for my future career as well as communication skills. The seminar was a great opportunity for me.



※『国際キャリア教育プログラム』では、集中講義形式のセミナー「国際キャリア教育」及び「International Career Seminar」並びに、国内外の企業・団体等で活動する「国際キャリア実習」の計3科目を開講します。企画内容は年度により異なります。上記は実施内容の一部です。

URL : <https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/>

外国語臨地演習

中国語

国立台湾師範大学（台湾）

国立台湾師範大学での外国語臨地演習（中国語）は、3週間という短い期間ながら、多くの学びが得られる充実したプログラムでした。午前中に3時間の中国語の授業を受け、午後や休日には文化体験や校外学習、台北市内の街歩きを行いました。初日に口頭試験が実施され、その結果に基づき約10人の少人数クラスに分けられます。授業はすべて中国語で行われ、ペアワークやグループワークが多く取り入れられていたため、学んだ語彙や文法をすぐに実践することができました。文化体験では中国結び、台湾茶道、太極拳を体験し、校外学習では十分や九份、国立伝統芸術センターを訪れ、台湾の文化や歴史に触れました。さらに、国際学部の先輩方をはじめ、台湾で活躍する日本人の方々のお話を聞く機会も多く、様々な職業や海外での働き方について考えるきっかけとなりました。語学の学習だけでなく、異文化理解やキャリア形成にも学びの多い3週間でした。興味のある方はぜひ挑戦してみてください。

原田実花子



スペイン語

アルカラ・アルカリングア大学（スペイン）

外国語臨地演習（スペイン語）では、毎日が刺激的で充実した3週間を過ごしました。

私ももっとも印象的であったのは人との出会いです。大学での授業では、陽気なスペイン人の先生や他国から来た留学生たちと一緒に楽しく授業を受け、スペイン語学習を通じて各国の友達を作ることが出来ました。また、街のお祭りでは現地の人達とダンスをしたり会話をしたりすることもありました。ホームステイ生活も経験し、スペイン人のホストファミリーとも楽しい時間を過ごしました。ホストママが作ってくれるスペイン家庭料理はとても美味しく、スペイン人と同じように生活することで、よりスペインの食文化や生活スタイルなどのスペイン現地の文化を肌で感じる事ができ、非常に刺激的なものとなりました。ホームステイはネイティブの人と会話をする貴重な機会となり、実際に3週間でもスペイン力が向上したと感じます。日常では出会うことのない人たちと交流し、かけがえのない体験ができるので、是非おすすめしたいです。

山内萌々子



英語

サラワク大学（マレーシア）

約2週間のマレーシアでの英語研修は、新しいことに挑戦する素晴らしい経験がたくさんありました。この研修では、サラワク大学の学生と宇都宮大学の学生がグループを作るパーティ制度をとっています。授業後の自由時間や夕食時はいつでもパーティと行動するので、非常に安心感があり、マレーシアの美味しいご飯やお土産のお菓子なども堪能できました。パーティは私の拙い英語も聞き取ってくれ、常に私たちのことを気遣ってくれていました。本当に楽しく充実した毎日でした。

クローキングセレモニーでは、マレーシアのダンスと私のパーティの出身国であるキルギスのダンスを披露しました。ダンスの経験は全くなかったのですが、その時しかできないことに挑戦したいと思い練習しました。研修を通して、やりたいことに挑戦する力が身についたし、自分の選択次第でより最高の経験を得ることができると思いました。少しでも興味があったら飛び込んでみてください。

千田那菜子



宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

Center for Multicultural Public Sphere (CMPS)

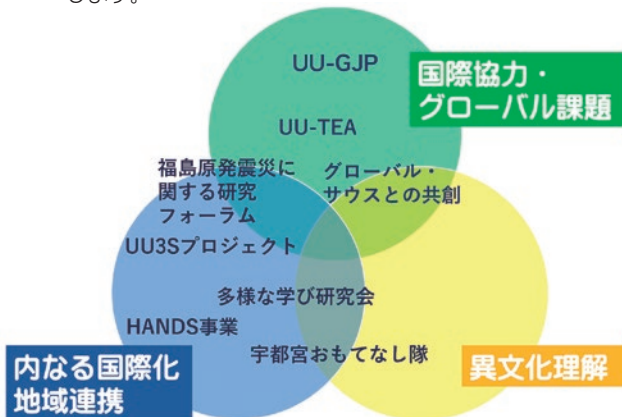
多文化公共圏センターは、よりよい世界を目指し、多様な主体間の議論を学際的につなげ、包摂的な視点から自由な意見が交わされる拠点となることで、宇都宮大学発の公共圏の創成に貢献し、その成果を広く社会に発信する場です。

国際化が進んだ現在の世界で我々が直面している多様な課題に対処するためには、国家の枠をこえた市民一人ひとりのつながりが欠かせません。多文化公共圏センターは、大学と社会との連携を強め、人間に関わる内外両面における複数のシステムを様々な専門分野から多角的に分析し、学際知を基礎に、国際的な視野から取り組みを促進するプラットフォームの役割を担っています。

多文化公共圏センターは、グローバル・グローバルな視点から、様々な課題とその背景に関わる学際知をつなぎ、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」世界を、大学と社会が一体となって創造することを目指しています。

センターのネットワークと多彩な事業

1. 多文化公共圏センターでは、大学・学生・自治体・国際交流団体・市民団体 (NGO/NPO) 等との幅広いネットワークを通して、「国際協力・グローバル課題」、「内なる国際化・地域連携」「異文化理解」の3分野で事業 (Project) を運営しています。
2. 自治体・国際交流団体・市民団体 (NGO/NPO)・教育機関・外国人コミュニティ等からの、相談・協力・共同研究に対応します。
3. 学生・市民団体等 (NGO/NPO) の地球規模の課題解決や国際協力・国際交流等の事業への参加を支援します。
4. 国際協力・貢献、多文化交流に関する理論的実証的研究と教育による人材育成を行います。
5. 年間を通じ、「多文化公共圏フォーラム」を多様なテーマで開催し、自由な意見交換や議論の場 (=多文化公共圏) を創造します。
6. ホームページや機関紙等を通してProjectの成果等を発信します。



多文化公共圏フォーラム

2025年度多文化公共圏フォーラム実績一覧

EUの環境協力経験 — 政策、成功事例、課題と展望
原発事故の教訓と未来のエネルギー政策～ドイツの経験から学ぶ～
気候危機と地域からのエネルギーシフト：既存住宅への太陽光発電普及の課題と可能性
罪のないお洋服？：1977年以降のスリランカにおける労働闘争の歴史とスリランカのアパレル産業の現状
国内の日本語教育と日本語教師の現状と課題
ニューカマー外国人女性の迎える高齢期と日本社会
「ちがいを豊かさ」に多文化共生社会を目指して
「アフリカ学入門」公開授業：栃木県内での絵本読み聞かせ活動について
宇大生によるSDGs映画上映会「今すぐ購入：購買意欲はこうして操られる」
国際協力論特別講義：『20×途上国』経験は、その後の人生にどう生きるのか
高校生と考える、世界の貧困と私たちの消費生活～スリランカ紅茶農園の子どもたちに学びの機会を届けるには？～
アジア諸国における循環型社会の実現を目指して
2025年宇都宮大学現代アフリカ政治連続セミナー
WPS (女性、平和、安全保障) コロキアム：音楽がつつなぐ平和とジェンダー —ウクライナからの祈り—
We Are the World：「多言語による高校進学ガイダンス」の運営に参加して
とちぎインバウンドおもてなしセミナー
Nature Positiveとは何か～グローバル目標とその実践
被爆者の語りが国際政治に与える影響

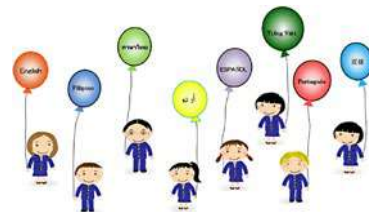
2025年12月時点のもの。

センターの事業・プロジェクトのご紹介

HANDS事業

グローバル化する地域で問われる外国人児童生徒教育に関して、県内様々な関係者と協力・連携しながら多面的な観点から応援しています。国際学部の学生も、ボランティアとして様々な場面で外国人児童生徒の支援や国際理解教育に直接かかわっています。

- 支援の場と直接つながる——外国人児童生徒支援のための学生ボランティア派遣 (中国語、英語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語、ウルドゥー語、ベトナム語など)
 - 教育体制の充実を図る——外国人児童生徒教育推進協議会の開催 (年2回開催) HANDSメンバーと栃木県教育委員会・県内11市町教育委員会とその小中学校代表が集まり、各地域の現状や課題について情報・意見交換しています。
 - キャリア形成の支援——多言語による高校進学ガイダンスの開催 外国人児童生徒及びその保護者に対して、学校のしくみや高校入試制度について8言語による正確な情報提供を行っています。(学生ボランティアも協力)
- その他、様々な活動を通して外国人児童生徒の学習や高校進学を応援しています。



福島原発震災に関する研究フォーラム

原発震災はグローバルな問題構造のもとで発生し、今なお社会に甚大な影響を及ぼしています。原発震災の記録を継承することは次世代に向けての責務でもあります。他大学の研究者や行政機関、幅広い市民や被災者の方々と協働しながら、研究調査・学会発表・論文発表・図書刊行、研究会・公開シンポジウム開催を行い、市民社会に広く公表・発信し、問題提起を続けています。



UU3S

気候危機、プラスチック、資源獲得競争、戦争等、国内外の課題が山積する時代において、持続可能な社会へのトランジションをめざす地域共創プロジェクトです。脱炭素・サーキュラーエコノミー・ネイチャーポジティブを横断し、多文化公共圏での研究・教育・社会実践の融合を踏まえ、誰1人取り残さないトランジションを模索します。活動は主に三つの領域で展開しています。

- ①エネルギー・脱炭素分野では、断熱改修や地中熱利用などのエネルギー効率化・再エネを調査・社会実験し、学生参加型のワークショップや地域NPOとの協働を通じて、快適性と脱炭素の両立を考えます。
- ②自然共生分野では、里山保全や有機農園での活動を通じ、生態系への理解と地域コミュニティとの関係性を深めます。
- ③循環経済分野では、リフィルうつのみによるプラ削減や、公開授業・映画上映会を通じて倫理的消費と行動変容を探究しています。

さらに、新聞・ラジオ、地域イベントでの発信により、学びを社会へ還元し、地域全体で持続可能な未来へのトランジションを後押ししています。



Utsunomiya University Global Justice & Peace Research Institute (UU-GJP)

UU-GJPは国際学部と国際刑事裁判所とのMOUを記念して、2025年10月に設立されました。武力紛争後の社会で平和を築くために必要とされる「知」を政治学や法学からグローバルな研究に取り組んでいます。参加学生は、国連や国際NGOでインターンを経験し、卒業後は、国内外の大学院進学、大使館や報道機関等で活躍しています。



UU-TEA

日本で一番多く飲まれているセイロンティーの生産地、スリランカの紅茶プランテーション農園コミュニティの青年や子どもたちと本学の学生が交流を続けています。現地の抱える問題について、SNSや報告会を通して発信しています。



宇都宮おもてなし隊

宇都宮おもてなし隊は、新幹線や日光線を利用するインバウンド（外国人観光客）に対して、待ち時間を活用し、日本の文化などを通して、学生による交流とおもてなし活動をしています。



グローバル・サウスとの共創 (在来知・食・健康、日本の国際協力、タンザニア絵本プロジェクト)

グローバル・サウス、とくにアフリカ（タンザニアやガーナなど）におけるSDGsや国際協力に関する活動・研究成果を発信し、文化理解・交流・国際協力に関する活動の場を提供します。2022年度以降、「在来知・食・健康」「日本の国際協力」「タンザニア絵本プロジェクト」の3つの分野における活動をしています。



成果の図書 Changing Dietary Patterns, Indigenous Foods, and Wild Foods (Springer) は、国際開発学会賞2024年度選考委員会特別賞を受賞しました。

問い合わせ先（国際学部附属多文化公共圏センター）

TEL:028-649-5196 / FAX:028-649-5228

ホームページ: <https://cmps.utsunomiya-u.ac.jp>

多様な学び教室

多様な学びの場に関する研究と活動を行っています。「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」と協働して開催している多様な学び教室（国籍・年齢問わず、誰でも無料で学べる場、毎週水曜日午後開催）は、多文化交流の場にもなっています。





英語圏文化論・イギリス文化論
出羽 尚 いずは たかし

イギリスの文化、とくに美術がわたしの研究対象です。専門的な言い方では美術史学と呼ばれる分野で、美術史学が対象とするのは絵画、彫刻、工芸を中心に、建築、ファッション、写真など多岐にわたります。

あまり触れることのなかった学問かも知れませんが、案外皆さんの身近にも関わっています。例えば、旅行。イギリスと言えば、大英博物館（＝美術館）、セント・ポール大聖堂（＝教会・寺院）、ストーンヘンジ（＝遺跡）などの名が挙がるでしょう。イギリスに限らず、美術館、教会・寺院、遺跡はたいてい人気の観光地になりますが、いずれも美術史学が研究対象とするものです。旅行はまさに美術史学の勉強、と言っても過言ではありません。

逆もまた真。美術史学の基本は歩くこと、見ること。旅と同じです。そこが大きな魅力です。

担当授業科目

イギリス文化論 イギリス文化論演習
Cultures of the English-Speaking World

izuha@a.utsunomiya-u.ac.jp



文学 表象文化論
大野 斉子 おの ときこ

フランスとの比較の視点からロシアの文化と文学を研究しています。

もともとフランス語の勉強をしていた私はドストエフスキの1冊の本と出会ってロシア文学に引きこまれました。それから文学、メディア、宮廷文化、香水など様々なものに関心を持って研究してきました。思えば私に次々と新しい世界を開いてくれたのは本や人との出会いでした。

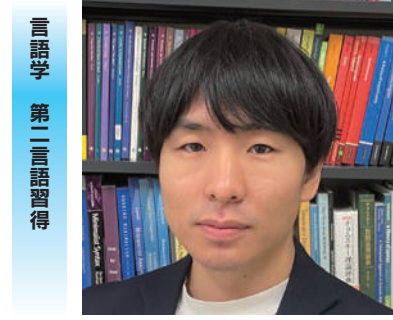
皆さんが今の日本で触れることのできるロシア文化はたくさんあります。文学作品やバレエ、絵画、音楽などロシアが発信する優れた文化は、もとをたどればヨーロッパの文化とロシアに古くからあった文化との出会いから生まれたものなのです。

出会いは何かを生み出す原動力になります。大学は様々な分野の授業があり、留学もできる開かれた場です。何を勉強するのも自由なのです！大学で、あなたに世界を開くなにかをたくさん見つけてください。

担当授業科目

芸術文化論 表象文化論

tokiko@a.utsunomiya-u.ac.jp



言語学 第二言語習得
木村 崇是 きむら たかゆき

私たちは皆、ある言語の母語話者であり、多くの場合、他言語の第二言語学習者でもあります。私の研究では、生成文法理論に基づき、母語話者や第二言語学習者がもつ言語知識（主に形態・統語や意味）の解明を通して、人間が共通にもつ普遍的かつ遺伝的な言語能力を解明することを目標としています。

一般的に、私たちは子どもの頃に母語の文法について明示的に教わることはありませんが、教わってもしない複雑で抽象的な言語知識を自然と身につけています。また、第二言語についても、母語とも目標言語とも異なり、学校で教わってもいないような独自の知識体系を学習者は作り出します。このような不思議な現象は、生成文法などの言語理論で大枠は説明可能であることはわかっていますが、未解明・未解決の問題が山積しています。言語の話者・学習者として、自分達の頭の中で一体何が起きているのか、是非一緒に考え、謎を解き明かしていきましょう。

担当授業科目

言語学 言語学演習
Learning a Different World through English

tkmr32@a.utsunomiya-u.ac.jp



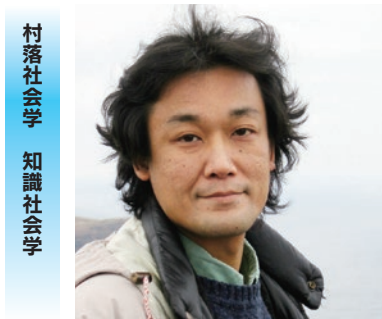
国際協力
栗原 俊輔 くりはら しゅんすけ

国際協力の分野は、広く、深く、そして分かりにくい。私たちのまわりには、食糧や工業製品を始め、途上国で生産されているものがあふれ、経済やITを中心に世界はますますグローバル化が進んでいる。しかし、先進国と途上国の格差や、途上国での低賃金や機会の不平等など、社会的側面を見逃すことはできない。私たちの豊かな生活のために誰かにしわ寄せが行っているのではないか。世界はますます深く複雑につながり国際協力のあり方も問われている。先進国から途上国への支援という一方的なつながりではなく、どのような場面でもどのように世界とつながっているのか、また、果たして正しくつながっているのかを分析し、問題解決への道筋を探ることを通し、これからの国際社会そして日本のあり方を考えていきたい。

担当授業科目

国際協力論 国際協力論演習
国際キャリア教育関連科目 海外フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ

shunsuke@a.utsunomiya-u.ac.jp



村落社会学 知識社会学
古村 学 こむら まなぶ

「田舎」や「僻地」と呼ばれるような村落社会、とくに日本の離島や中山間地域をフィールドとして勉強させてもらっています。自然保護などのグローバルな現象を地域に住む人々はどうにとらえているのか、そして、それはどうしてなのか。住込み調査などの手法で、そこの生活を理解することによって、人々の日常生活の視点から見たグローバルな現象の意味について考えています。

地域社会は過去にはどのような社会であったのか、なぜ、どのように変化していったのか、現在の状況はどうなっているのか。これらのことを現地に生活する人々の視点から学んでいくこと、とくにフィールドの場で、みずから学ぶことを重視しています。そのことによって、グローバルな価値観を単純に受け入れるのではなく、地域ごとに異なるローカルな価値観から批判的に考えていきたいと思っています。

担当授業科目

社会調査法入門 地域社会論 地域社会論実習

komura@a.utsunomiya-u.ac.jp



アフリカ地域研究 社会開発論
阪本 公美子 さかもと くみこ

人間にとって発展、よい生活とは何でしょうか。近代化論や従来の経済学では、人類が欲を満たし、富を蓄積することによる経済成長が他者や他地域に波及し、社会開発も伴うと信じられてきました。しかし国際・国内格差はむしろ拡大しているだけではなく、経済成長した地域でも多くの社会・環境問題が山積しています。現在、世界は経済成長のみならず、持続的開発目標（SDGs）に取り組んでいます。多様な経済・社会・文化を理解し、発展のあり方を見直す必要も出てきています。

授業では、アフリカにおける勤務・研究経験を活かしながら、地域規模の問題群を私たちの生活とつながりのあるものとして認識しつつ、理論やアフリカ地域について学び、世界の経済・社会状況を理解する目を養っていきます。

担当授業科目

アフリカ論 途上国経済発展論 アフリカ論演習
東アフリカの社会開発と文化

ksaka@a.utsunomiya-u.ac.jp

国際関係論 国際機構論



清水 奈名子 しみず ななこ

国際関係を研究する学問が確立したのは、「戦争の世紀」と言われた20世紀になってのことです。その課題は常に、「戦争と平和」の問題に向き合うことでした。なぜ国々は武力を用いて争い合うのか、どうすれば異なる地域や文化に属する人々が共に生きていくことができるのかを考える作業が、その中心となります。

現代世界を見渡してみても、武力紛争や大量破壊兵器の拡散、テロ、内戦での集団殺害など、多くの問題が存在しています。国際関係を学ぶということは、これらの問題はなぜ起きるのか、またどうすれば解決できるのかを粘り強く考え続けることです。授業では、世界の諸問題に対処している国連などの国際機構の働きを学びながら、私たちが生きている世界に何が起きているのかを一緒に考えていきたいと思っています。

担当授業科目

国際関係論 国際機構論 国際関係論演習

nshimizu@a.utsunomiya-u.ac.jp

社会学、移民・エスニック研究



申 恵媛 シン ヒエウオン

社会学を軸に、日本におけるエスニック空間の研究に取り組んでいます。特に、多国籍・多文化化する地域でどのような社会関係が編み込まれていくのに関心を寄せています。

「エスニック」と聞いたとき、どのようなイメージをもつでしょうか？最近では身近になった「エスニック料理」や「エスニック・タウン」を思い浮かべる人も多いのではないのでしょうか。その「エスニック料理」を提供する人々はどこからどのように来日し（あるいはせず）、どのような経緯でその地域に拠点を構え、ビジネスに従事するようになったのでしょうか。また、そうしたお店や施設が集積し「エスニック・タウン」が形成されていったことは、近隣に住む・働く・学ぶ・集まる人々とのような関係にあるのでしょうか。そして、これらの状況はどのような文脈のもとで生じているのでしょうか。このように、身近な出来事を深く広く掘り下げ、より学術的に読み解く面白さを、ぜひ満喫してください。

担当授業科目

国際社会学 人の国際移動 人の国際移動演習

hshin@a.utsunomiya-u.ac.jp

ラテンアメリカ論



Ana Sueyoshi スエヨシ アナ

ラテンアメリカと聞くと、日本から非常に遠いところにあり、全体的に同じような国々があるという印象を日本人は持っていると思います。しかし私はこのような画一的な見方を乗り越えられるように授業をする予定です。

アメリカが発見されてから、アメリカ先住民の古代文明は西洋世界と接触し、現在知られているような新しく特徴的な地域が作られてきました。ラテンアメリカとカリブ海諸国はしばしば同質的だと考えられています。なぜなら、これらの国々は言語、宗教、歴史などにおいて共通の面を持っているからです。しかし実際には、原住民とスペイン、ポルトガルからの征服者が出会い、またアフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの影響で文化が混ざり合い、ラテンアメリカ諸国は社会的、経済的、政治的なユニークさを持つようになりました。このような同質さの中の異質さは、ラテンアメリカの最も魅力的で面白いところです。

日本とラテンアメリカおよびカリブ海沿岸諸国との経済・文化面での交流が最近増えてきたため、ラテンアメリカとの距離は近くなってきています。その距離をもっと狭めることができるようにラテンアメリカの社会、文化、経済、政治、歴史を学生に紹介して刺激を受けてもらい、将来の研究や仕事の参考にしたいと思います。

担当授業科目

Introduction to Latin American Studies
Latin American Politics and Society
Seminar in Latin American Studies

sueyoshi@a.utsunomiya-u.ac.jp

東南アジア政治研究



Sugit Arjon スギット アルジヨン

国際関係の分野では、グローバル ガバナンスと市民社会という2つの主な行政機関を扱うことがよくあります。

グローバル・ガバナンスはまた、二国間および多国間協定、明らかな矛盾、不安定なダイナミクス、および未解決の問題に満ちた研究です。したがって、この概念は、世界の経済、政治、文化、安全保障などの特定の問題から切り離すことはできません。

個々の側面がグローバル ガバナンスの最近の発展を後押ししており、ローカルおよびグローバルに発生しているセキュリティと経済の動向によって、定期的に集会的に引き離されています。重要な問題は、世界的なガバナンスがより大きな協力または対立に向かっていくかどうか、および国家や他の関係者がその方向にどのように影響するかです。

さらに、過去20年間、私たちは社会運動の台頭とその出現方法に注目してきました。この運動は、安全保障、国家のイデオロギー、政策、文化、アイデンティティに影響を与えます。

社会運動は、市民的不服従、抗議、フレーミングなどの特定の戦略を検討することによって変化をもたらします。

担当授業科目

Global Civil Society
Seminar in Global Governance
Theory of Global Governance

sugit@a.utsunomiya-u.ac.jp

国際環境協力



高橋 若菜 たかはし わかな

せまりくる気候危機、海洋プラスチック汚染、森林破壊、種の絶滅に、放射能汚染。21世紀に入り、環境問題はますます深刻化しています。問題の解決には何が必要なのでしょうか？科学技術、資金？それとも法律、あるいは人々の意識でしょうか？

これら全てを方向づけるのが、政治です。徹底した情報公開、報道の自由度の高さ、地方分権、開かれた政策形成プロセスと、様々な次元での市民参加・ジェンダー平等などは、総じて、多様性を重んじる人に優しい環境取組を可能にしています。

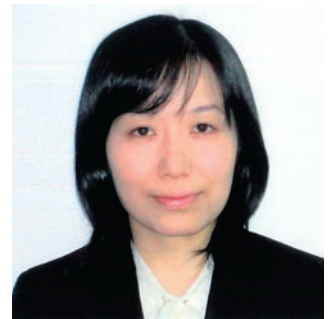
授業では、スウェーデンをはじめとする国内外での学際的共同研究や、国や自治体の審議会、NGOなどの実務経験を活かして、座学だけでなくフィールドスタディや社会との共創を通じ、カーボンニュートラルな循環型社会へ向けての持続可能な移行のためのガバナンスを探ります。

担当授業科目

SDGs入門 環境と国際協力 地球環境政策論 環境と国際協力演習 多文化共同実践演習(グローバル) ジェンダー論 (他8名)

wakana@a.utsunomiya-u.ac.jp

日本語学 日本語史



高山 道代 たかやま みちよ

「ことば」は人々の使用の中で、また、他言語との接触をとおして変容しつづける存在といえます。世界の言語は一般的に三千種ほどにわかれるといわれています。そのなかで日本語はどのような点で普遍性また独自性をものかについて、文法的視座にたつた分析を通してとらえていきたいと考えています。また、その際には現代語を対象とする場合でもその背景となる歴史的変容を視野に入れながら、体系的にとらえたいと考えています。

授業では、日本語に関する多様な問題を空間軸、時間軸上の様々な観点からとりあげます。現代語をはじめ、古代語や地域語などの多様な日本語を実際の用例の中で具体的に考え分析することに力を入れます。

担当授業科目

日本語論 日本語史 日本語論演習

mtakayama@a.utsunomiya-u.ac.jp

多文化共生教育



立花 有希 たちばな ゆき

比較教育学が専門で、主にドイツの異文化間教育について研究しています。文化、言語の異なる子どもが在籍しているとき、学校にはどのような対応が求められるのでしょうか。また、多文化化、多言語化する社会のなかで、学校教育はどのように変化するべきでしょうか。そうした問いに答えるためには、歴史や国際比較に学ぶ必要があります。

授業では、多文化社会における教育を考える上で重要な理論と実践について、国内外のさまざまな文献や事例を参照し、これからの多文化社会について議論していきます。

担当授業科目

多文化共生教育 多文化共生教育演習
外国語特別演習（ドイツ語）

tachibana@a.utsunomiya-u.ac.jp

教育社会学
外国語教育

戚 傑 チー ジエ

ポスト構造主義・ポスト植民地主義の視点から学校教育・言語教育に関する研究・分析を行っています。現在関心を持って取り組んでいるのは日米中における大学入試制度と学力観・人間形成観の相違に関する研究です。具体的には、社会や教育がどのようにして人間を形成し、一旦形成された価値基準が社会や教育にどのように影響を及ぼすかについて論理と実証の両面から検証を試みています。これに加えて、グローバル化と多文化教育の在り方に関する研究も行っています。従来、多文化論は、異なる文化背景を持っている人間同士が「交流・理解できること」を前提に展開されましたが、紛争の絶えない世界の現実を見る限り、他者を理解したつもりでもコミュニケーションは他者を理解する障害にさえなるとも言えます。そこで、この「理解可能な他者」を前提とするよりも、理解できない「文化的な溝」を分析することにより多文化教育の在り方を探求しています。なお、授業では、学生の理論的思考力と創造性を引き出すことに重点を置き、異なる文化をもつ人々とコミュニケーションをとる際に必要な能力と態度を養うことを目指しています。

担当授業科目

移民と多文化教育 移民と多文化教育演習
グローバル化と外国人児童生徒教育（他6名）
Japanese Communication Arts（基盤教育科目）

jqj@a.utsunomiya-u.ac.jp

感情心理学
社会心理学

中村 真 なかむら まこと

感情とコミュニケーションの心理学について研究しています。特に表情に表れる感情とその判断に興味があります。表情を通して感情のコミュニケーションは、人間のあらゆるコミュニケーションの基礎になるものです。いくつかの感情を表す表情は、生まれながらといってもよいほど発達のごく初期から人間に備わっています。新生児は泣いたり、笑ったりすることで周囲の人間に情報を伝え、適切な働きかけを促します。また、子供は発達のプロセスを通じて、自分の表情、感情表現を適切にコントロールするための規則を学んでいます。このような規則には文化などの集団による違いもあり、その違いを知らないために様々な誤解が生まれる可能性もあります。最近では、感情と排斥行動の問題についての研究も進めています。

担当授業科目

異文化間コミュニケーション
対人コミュニケーション論
対人コミュニケーション論実験

nakamura@a.utsunomiya-u.ac.jp

国際法
国際人権
刑事法
平和構築論

藤井 広重 ふじい ひろしげ

紛争後の国家再建における司法の役割を中心に、アフリカ地域での事例研究に取り組んでいます。初めてアフリカを訪問したのはボランティアとして、その後も仕事や調査のため数か国に滞在しました。そして、その度に「私」とは異なる様々な違いに気付かされます。しかし、これは「アフリカ」と「私」に限ったことではありません。この世界中に、また日本国内にも、違いを持つたくさんの人々が生活しています。この違いは、私達の生活を豊かにしてくれますが、時に深刻な事態をもたらすこともあります。私たちは「違い」がもたらす不正義に対し、如何に向き合うべきでしょうか。アンリー・テュナンやキング牧師は、不正義を克服し、より良い社会を目指して活動しました。私は、彼らの活動を支えたのは、人々からの支持だけではなく、彼らの「意志」だと思っています。そして、私が専門とする分野の学びは、理想とする社会を議論することで自らの「意志」を育む機会でもあると考えます。南アフリカのネルソン・マンデラは、政治犯として27年間投獄されながらも、後に大統領となりアパルトヘイトを廃止します。そんな彼が、次のような言葉を残しています。「One of the most difficult things is not to change society - but to change yourself.」より良い社会に向かうための鍵は、私達自身が握っているのです。

担当授業科目

国際法演習、International Protection of Human Rights
International Humanitarian Law in Theory and Practice

fujiih@a.utsunomiya-u.ac.jp

フランス文学、ヨーロッパ思想史



槇野 佳奈子 まきの かなこ

私が研究対象としているのは、19世紀のフランス文学・思想・文化になります。留学先で提出した博士論文では、1839年にパリで公式発表された写真技術が当時のフランスにおいてどのような存在として受け入れられ、人々はその芸術性についてどのように捉えることになったのかを、同時代の科学普及活動家の見解を中心に分析しました。本学着任後は、19世紀のフランスにおいて「科学」と「非科学」の境界がいかに認識されていたのか、という観点から新たに研究を進めています。皆さんも大学で、これまで自分の知らなかった言語を努力して学んだり、これまで手に取ったことのないような文献を読み込んだりすることで、自分の中で何かが変わっていくような感覚が味わえると思います。自ら考え、自分の言葉で語ることの面白さ、そして他人の言葉にも耳を傾けて違いを尊重し合う楽しさを、大事にできればと思っています。

担当授業科目

フランス文化論 フランス語講読
フランス文化論演習

kmakino@a.utsunomiya-u.ac.jp

比較日本文化論・身体文化



松井 貴子 まつい たかこ

日本って何でしょう？
自分が生まれ育った日本を客観的に眺め、理解するために、私には他者の視点が必要でした。日本文学を経て比較文学比較文化に出会い、現代につながる近代日本を研究の対象に選びました。

日本の近代化は急速な西洋摂取によって進められました。その結果、近代日本は、前時代から隔絶したかに見えながらも、そこには、日本が東アジアから摂取した伝統文化が確かに底流しています。変動する時代のなかで、文学も、文学以外の様々な文化や歴史、社会の動きと連関しながら、日々新たに創造され、生き続けてきました。

西洋受容に関わる伝統の継承と断絶という視点から、日本の近代化の特質や本質を明らかにすることを目指しています。

そして、現代の日本に現前する多文化環境から、文化間の異質性と同質性を見出して、文化が融合し、解離する様相について、その意味を考え続けています。

担当授業科目

日本文化論 日本文化論演習 身体文化
多文化公共圏実践演習（グローバル/グローバル）

mtaka@a.utsunomiya-u.ac.jp

地域研究 (中東)



松尾 昌樹 まつお まさき

中東地域の政治経済現象について研究しています。中東地域は石油や紛争、イスラムや非民主主義的な政治体制がよく知られています。それに加えて、中東は世界最大の移民受け入れ地域でもあり、多様な文化的背景を持った人々から構成されています。こうした特徴をもとに、莫大な石油収入を国民に配分することで非民主的な統治制度を維持する政治経済システム（レンティア国家）や、大量の移民を受け入れることが民主主義の定着を阻害する統治制度（エスノクラシー）について研究しています。

石油や移民、(非)民主主義的統治といったテーマは、21世紀のグローバル世界を考える上で非常に重要で、こうした特徴が顕著な中東地域の研究から得られた知見は、しばしば中東以外の地域の研究にも役立てられています。このため、中東以外の多様な地域を研究する学問であるエリアスタディーズも担当しています。また、さまざまな地域での現地調査に加えて、統計資料やサーベイ調査から得られた多様なデータをコンピューターが作り出したモデルに投入して分析する計量分析にも取り組んでいます。皆さまも、多様な地域と一緒に研究しませんか？

担当授業科目

国際事象の実証分析 中東地域研究
中東地域研究演習

matsuom@a.utsunomiya-u.ac.jp

一般言語学
教育学

吉田 一彦 よしだ かずひこ

言語とコミュニケーションの本質は何か？ということを追及しています。相互理解と誤解の両方のメカニズムに関心を持ち、個々の言語現象を、類似の現象や他の言語と比較・対照し相対化してみる作業を大事なことだと考えています。日本語・フランス語・英語・タイ語・モンゴル語・中国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語など、複数の言語をみずから学び、多言語コミュニケーションの実践をとおして研究課題を見つけ、記述的にも理論的にも現象の解明と取り組んできました。

自分自身留学生として非常に有意義な日々を過ごしました。今でも昨日のことのように思い出します。また、機会に恵まれ、30以上の国を訪ね、おそらく100を超える国籍の人々と共同作業をしてきました。国籍や思想や歴史観、文化・社会背景が違う人間が共同作業し、互いをリスペクトし、自分が何者であるかを忘れるぐらい熱心に学び合える、そんな機会を大学の教育・研究活動をとおして実現したいと考えています。そして、これから世界に出て行く人のサポートとも取り組んでいます。

担当授業科目

言語表現の世界A/B(多言語コミュニケーション学)
Linguistic Typology and Language Communication
日本語教育と国際協力演習

ysd@a.utsunomiya-u.ac.jp

東アジア
国際政治

松村 史紀 まつむら ふみのり

国際政治の舞台では好戦的で権力闘争に長け、悪意をもった勢力ばかりが危機を引き起こすとは限らない。正義や平和をかかれた人間が期待を裏切り、悪行と悲劇に終わることもめずらしくない。

国際政治の歴史を学ぶことは、悲劇を引き起こした犯人をさがし、論難することではなく、そのような恐怖のもとにおかれた人間を深く理解することにほかならない。いまを生きる人間は現代の価値観に基づき、事態の結末を知っているという優位な立場から過去の悪行を噛み、厳しく裁くことに慣れている。それを「歴史の教訓」だと自負すれば、恐怖にかられた人間と対話する機会は生まれまいだろうし、みずから現代の特権を享受しているという自覚さえもばえまい。切迫した状況のなか、限られた情報と資源しか与えられない人間にどのような選択が許されたのか。この難題を考えることが過去の人間と対話するわずかな手がかかりとなるだろうし、未来へのささやかな道標にもなるだろう。

担当授業科目

国際政治論 近現代中国論 国際政治論演習

f-matsu@a.utsunomiya-u.ac.jp

アメリカ文学
アメリカ文化研究

米山 正文 よねやま まさひみ

私の研究対象は19世紀のアメリカ合衆国の文学です。他の国でもそうかもしれませんが、合衆国の場合とりわけ文学が国造りと関わってきました。18世紀末にイギリスから独立し新しい国家ができたとき、作家たちは地域・民族・階級で分裂していた人々に、新しい国の特徴や価値観を意識的に描いていきました。私の研究対象は、こうした作家たちの詩や小説のみならず、パンフレット、新聞記事、演説など文字にされたもの全般になります。ナショナル・アイデンティティを構築しようという共通性とともに、こうした作家たちの中の多様性にも注目したいと思っています。それによって合衆国の形成されていく複雑な過程を追うのが私の目的です。

担当授業科目

アメリカ文化論 アメリカ文学史
アメリカ文化論演習

yone@a.utsunomiya-u.ac.jp

英語音声学
音響音声学

湯澤 伸夫 ゆざわ のぶお

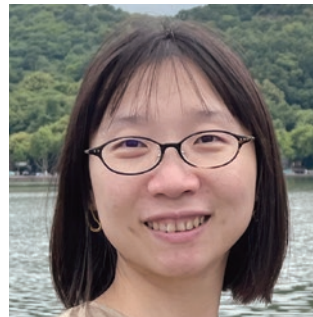
英語の音声を分節音とプロソディの観点から科学的に研究する英語音声学が専門です。研究には音声を正確に聞き取ること、発音記号を正確に読めること、音声を正確に発音記号で書くことも重要な技能になります。単に本を読んで理解しただけでは済まされません。英語の音声の研究にはコンピュータによる分析は欠かせません。工学研究者の研究成果により今後ますます優れたソフトウェアが作られ、より精度の高い研究ができることを期待しています。

研究対象としている英語の音声は、基本的にBBC accent (RP) とGAです。この他に、世界で使用されている様々な英語の音声もできる限り研究対象としたいと思います。日本人英語学習者が守らなければならない英語の音声の特徴の計量的な研究も進めたいと思いますし、将来的には学際的な研究を通して自動音声翻訳機の開発やTTSプログラムの改良にも挑戦したいと思っています。

担当授業科目

Phonetics and Phonology
Presentation and Discussion

yuzawa@a.utsunomiya-u.ac.jp

政治経済学
ジェンダー研究
中国経済

李 亜姣 り あこう

政治経済学とジェンダーの視点から女性の経済状況を研究しています。

中国農村女性が如何に土地権を手に入れたのかについて聞き取り調査を行ったなか、土地を失い、土地収用補償費等から排除された「農嫁女(のうかじよ)」を発見しました。それから土地財政と「農嫁女」、民間金融と「被負債女性」等に関心をもって研究してきました。

授業では、商品、サービスの国際移動に注目した国際貿易論や資本の国際移動を中心とした国際金融論を学び、こうした理論をジェンダー視点から考察し、現代のグローバル化における顕在化しつつある課題とは何かを把握していきま

担当授業科目

国際経済論 国際経済論演習
ジェンダー論

lyj660610@a.utsunomiya-u.ac.jp

文化人類学



Lee Perez Fabio リーペレス ファビオ

文化人類学は人の生き方を文化の側面から理解していく学問です。私は、ライフストーリーの交換という研究法で、この問題にアプローチしています。ライフストーリーは、その人が、生まれてから今日までの間に起きた出来事、生き方、物事に対する考え方や感じたことについての語りから、文化について考えます。私は、ライフストーリーを聞かせてもらうという行為には、「君のこと教えてよ」「じゃ、君のこと聞かせてよ」というように、相手にも自分のライフストーリーを聞かせるという相互関係があると思います。お互いのライフストーリーの交換を通して異文化の相互理解ができるんじゃないかと考えています。

私は、幼少期から連続的な移動を繰り返し育った人々のライフストーリー調査から、文化を跨いで生きる人々の生き方を、ストレンジャー論の枠組みから理解を試みしています。日本社会で「ハーブ」と呼ばれる人々の調査もしています。最近では、社会的に、空間的に疎遠な2人がいかにして友人関係を維持しているのか、互いの関係にどのような意味付けをしているのかを考えています。

ちなみに、趣味はサイクリングと怪獣フィギュア収集と映画鑑賞と料理です。

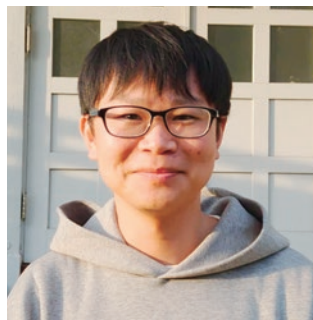
担当授業科目

文化人類学 民族誌学 民族誌学演習 スペイン語購読

lee.perez.fabio@a.utsunomiya-u.ac.jp

中国文化論

思想史研究



梁 鎮輝 りょう ちんき

近代における日本と中国の思想・文化を研究対象にしています。西洋文明を取り入れつつ、これまでの「伝統」を解体し、再構築していく過程において、当時の知識人や文人たちはどのような議論を行い、各々の「近代」を目指したのかについて研究しています。

授業では「中国」というものの持つ多様性を示し、常に化する現代中国に触れた際に感情的、短絡的に物事を判断してしまうのではなく、そのような文化現象が如何に発生し、如何に定着したのかというプロセスやメカニズムを皆さんと柔軟に考えていきます。

ある国や地域の文化を理解することとは、単に表面的な事態に視線を注ぐだけでなく、その精神的基盤を歴史的に掘り下げる必要があります。国際学部はまさに様々な学問体系を横断してそのような探求ができる場所であると考えています。

担当授業科目

中国文化論 中国語会話 中国語専門基礎

chinki-ryo@a.utsunomiya-u.ac.jp

留学生・国際交流センター

Center for International Exchange

国際協力
コミュニティ
防災

飯塚 明子 いいづか あきこ

防災は災害が多発する日本だけでなく、世界的に大きな課題です。私はこれまで日本、ベトナム、スリランカ、イラン、アフガニスタン等といった国内外の被災地で、大学の研究員、防災専門国際NGOの職員、国連職員という様々な立場から災害復興支援に従事してきました。その過程で、コミュニティを核とした防災（災害発生前の備え、災害発生後の緊急、復旧、復興期の対策）の必要性を強く感じ、現在の研究に至っています。

コミュニティ防災は、社会学、地域研究学、心理学、工学、政治学、国際協力学、文化人類学等の幅広い専門領域を網羅する学際的なテーマです。国内外の被災地の多様なリアリティーを捉え、多面的に理解し、包括的な提案ができるよう、一緒に学んでいきたいと思っています。

また大学（米国）と大学院（オランダ）で留学を経験し、インドでNGOインターン、ベトナムとスリランカでは防災国際協力に関連する仕事で駐在したことがあります。授業や専門分野に関わらず、留学や国際交流に興味のある方はぜひご相談下さいね。

担当授業科目

グローバル入門（基礎） Risk Management
Disaster Studies Disaster Studies演習

iizuka@a.utsunomiya-u.ac.jp

国際学部新書



世界を見るための38講
下野新聞社/2014年11月



多文化共生をどう捉えるか
下野新聞社/2018年10月



国際学への扉を開く
下野新聞社/2024年9月

宇都宮大学国際学叢書

タイトル	関係する教員	出版年
冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護	清水奈名子	2011
越境するペルー人	田巻松雄、スエヨシ・アナ	2015
オマーンの国史の誕生	松尾正樹	2013
第二言語によるパラフレーズと日本語教育	鎌田美千子	2015
平安期日本語の主体表現と客体表現	高山道代	2014
離島エコツーリズムの社会学	古村 学	2015
地域グローバル化にどのように向き合うか	田巻松雄	2014
原発避難と創発的支援	高橋若菜	2016
共生のための言語教育と多文化教育	戚 傑	2016
奪われたくらし	高橋若菜、清水奈名子、 阪本公美子	2022
ある外国人の日本での20年	田巻松雄	2019
外国人生徒の学びの場	佐々木一隆、田巻松雄	2023
激動するグローバル市民社会	重田康博	2017
Field Guide to Edible Plants in Tanzania and Their Nutrition	Editors: Kumiko Sakamoto, Frank M. Mbago, Hayashi Masayuki	2024
From Foreign Child to Illegal Immigrant	田巻松雄	2021
探求の国際学 複合危機から学際的な研究を考える 本書は11名の研究者が、自らが立てた問いに答えを出すために、どのような方法や、枠組みを用いて調査や研究を行っているのかについての事例を示すことで、読者が学術的な論文執筆などを通して自ら研究していく際の手引きとなることを目指している。	清水菜名子 藤井広重	2024



詳細、その他教員による出版物はコチラの二次元コードもしくは下記URLより参照ください。

<https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/faculty/publication.html>



キャンパス カレンダー

Utsunomiya University Campus Calendar

四季折々のイベントシーン。
きっと、一生忘れられない4年間になるはず。



4 April	入学式 オリエンテーション 新入生交流会
5 May	International Communication Seminar
6 June	卒業生による就職セミナー I
7 July	夏季オープンキャンパス 前期試験
8 August	前期試験 夏季休業 外国語臨地演習
9 September	夏季休業 国際キャリア教育 キャリアフェスティバル



10 October	秋季オープンキャンパス International Career Seminar
11 November	大学祭（峰ヶ丘祭）
12 December	卒業生による就職セミナー II 冬季休業
1 January	冬季休業 卒業論文提出
2 February	後期試験 春季休業 外国語臨地演習
3 March	春季休業 学位記授与式 卒業記念パーティー 外国語臨地演習



留学情報

協定校紹介

宇都宮大学は、海外の**44**の大学と**大学間交流協定**(★)を結んでいます。また、国際学部は、**16**の大学と**学部間交流協定**(★)を結んでいます。このうち42大学との間で学生交流に関する協定を結び、短期留学推進制度によって、交流協定校へ本学学生を留学生として送り出すとともに協定校からの留学生を受け入れています。



イギリス (連合王国)

- ★ランカシャー大学*3
UNIVERSITY OF LANCASHIRE



アイルランド共和国

- ★アイルランド国立大学ダブリン校
UNIVERSITY COLLEGE DUBLIN



フィンランド共和国

- ★東フィンランド大学*4
UNIVERSITY OF JOENSUU



フランス共和国

- ★オルレアン大学
THE UNIVERSITY OF ORLEANS



チェコ共和国

- ★パラツキー大学
PALACKY UNIVERSITY IN OLOMOUC



ドイツ連邦共和国

- ★エアランゲン・ニュールンベルク・フリードリッヒ・アレクサンダー大学
FRIEDRICH-ALEXANDER UNIVERSITY
ERLANGEN-NUREMBERG

- ★トリア大学
UNIVERSITY OF TRIER



オランダ

- ★国際刑事裁判所
International Criminal Court



シリア・アラブ共和国

- ★ダマスカス大学*2
DAMASCUS UNIVERSITY



ガーナ共和国

- ★ガーナ大学
UNIVERSITY OF GHANA



ケニア共和国

- ★ジョモ・ケニヤッタ農工大学
Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology
- ★メル科学技術大学
Meru University of Science and Technology



エチオピア連邦民主共和国

- ★アティスアベバ大学
ADDIS ABABA UNIVERSITY



タンザニア連合共和国

- ★ネルソンマンデラ アフリカ科学技術大学院大学*4
THE NELSON MANDELA AFRICAN INSTITUTION OF SCIENCE AND TECHNOLOGY
- ★ダルエスサラーム大学
UNIVERSITY OF DAR ES SAALAM



ロシア連邦

- ★イルクーツク国立大学*2
IRKUTSK STATE UNIVERSITY



アメリカ合衆国

- ★トライン大学
TRINE UNIVERSITY
- ★ヴィンセンス大学
VINCENNES UNIVERSITY
- ★ノースダコタ大学*2
UNIVERSITY OF NORTH DAKOTA
- ★パデュー大学*1
PURDUE UNIVERSITY



カナダ

- ★ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学
UNIVERSITY OF NORTHERN BRITISH COLUMBIA



メキシコ合衆国

- ★コリマ大学*2
UNIVERSITY OF COLIMA



キューバ共和国

- ★ハバナ大学*1
UNIVERSITY OF HABANA



ペルー共和国

- ★ポンティフィシア・カトリック大学
PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DEL PERU



マレーシア

- ★マレーシア・サラワク大学
UNIVERSITY MALAYSIA SARAWAK



ベトナム社会主義共和国

- ★ハノイ大学
HANOI UNIVERSITY
- ★ダナン大学工科大学
The University of Da Nang, University of Science and Technology



カンボジア王国

- ★王立プノンペン大学
ROYAL UNIVERSITY OF PHNOM PENH



モンゴル国

- ★モンゴル人文大学
UNIVERSITY OF THE HUMANITIES
- ★モンゴル生命科学大学
MONGOLIAN UNIVERSITY OF LIFE SCIENCES



大韓民国

- ★祥明大学校
SANGMYUANG UNIVERSITY
- ★全北大学校
CHONBUK NATIONAL UNIVERSITY
- ★蓮庵大学
YONAM COLLEGE
- ★慶北大学校
KYUNGPOOK NATIONAL UNIVERSITY
- ★釜慶大学校
PUKYONG NATIONAL UNIVERSITY



中華人民共和国

- ★復旦大学*2
FUDAN UNIVERSITY
- ★電子科技大學
UNIVERSITY OF ELECTRONIC SCIENCE AND TECHNOLOGY
- ★内蒙古農業大学
INNER MONGOLIA AGRICULTURAL UNIVERSITY
- ★浙江大学*3
ZHEJIANG UNIVERSITY
- ★浙江師範大学
ZHEJIANG NORMAL UNIVERSITY
- ★浙江工業大学
ZHEJIANG UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
- ★寧波大学
NINGBO UNIVERSITY
- ★チチハル大学
QIQIHAR UNIVERSITY
- ★華南農業大学
SOUTH CHINA AGRICULTURAL UNIVERSITY
- ★香港大学
UNIVERSITY OF HONG KONG



インドネシア共和国

- ★ボゴール農科大学
BOGOR AGRICULTURAL UNIVERSITY
- ★ガジャマダ大学
GADJAH MADA UNIVERSITY
- ★パジャジャラン大学
UNIVERSITAS PADJADJARAN
- ★ランブン・マンクラット大学
Lambung Mangkurat University



タイ王国

- ★カセサート大学
KASETSART UNIVERSITY
- ★タマサート大学
THAMMASAT UNIVERSITY
- ★アジア工科大学*4
ASIAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

バングラデシュ
人民共和国

- ★ダッカ大学
UNIVERSITY OF DHAKA

スリランカ
民主社会主義共和国

- ★ペラデニヤ大学
UNIVERSITY OF PERADENIYA



台湾

- ★国立台湾師範大学
NATIONAL TAIWAN NORMAL UNIVERSITY
- ★国立政治大学
NATIONAL CHENG CHI UNIVERSITY
- ★国立中興大学
NATIONAL CHUNG HSING UNIVERSITY
- ★国立暨南国際大学
NATIONAL CHI NAN UNIVERSITY
- ★国立台北大学
NATIONAL TAIPEI UNIVERSITY

*1 学術交流協定のみの締結校のため、学生の派遣は行っていません。 *2 学生の派遣は、現在行っていません。

*3 学生交流のみ行っています。 *4 学生交流は大学院生のみ行っています。

留学体験談

Student Voices

全てが学びと喜び

原 美月

✦ オルレアン大学

France
フランス



「留学する」

これは入学当初からの漠然とした目標でした。結局、英語と第二外国語の両方を伸ばせると感じ、フランス留学に決めました。留学を振り返ると、日々学びと喜びに満ちた“人生で一番充実した8か月”だったと感じます。

オルレアン大学での授業は、多様な国籍の仲間や優しさにあふれる先生と“フランス語でフランス語を学ぶ”というもので、勉強したことをいくらかでも生活に活かせる環境でした。現地の学生にも多くの友人ができ、ボジョレーヌーボーのパーティーに招待してもらったり、一緒に遊園地に行ったり、お好み焼きを作ったり…楽しく、貴重な経験になっただけでなく、友人作りが不得意な私にとって自信にもなりました。また、大学のスポーツ活動でダンスとバスケットボールに参加し、日本人1人の中、チームメイトとコミュニケーションを取りながらより良い成果を目指すという経験ができました。課外授業では演劇の授業に参加し、仲間と大きなステージで「ドン・キホーテ」を上演しました。さらに、イタリアやロンドンで友人と旅行したのも楽しい思い出です。

このように、オルレアン大学では日本ではできない経験ができるチャンスがたくさんあります。そして挑戦する中で、不安や困難が多いからこそ、周りへの感謝を改めて感じると同時に、自分と向き合う時間にもなりました。

本当に、留学して良かった。

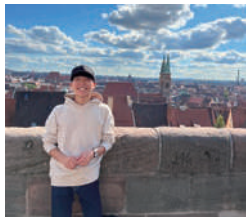
ぜひ、興味のある方にはチャレンジして欲しいです！

留学というひとつの選択肢

高田 伊知郎

✦ エアランゲン・ニュールンベルク・フリードリヒ・アレクサンダー大学

Germany
ドイツ



高等学校の英語教員になることを目指す中で、専門性のある知識を磨き、それを伝える技術を高めたいと考え留学を決意しました。言語習得に加えて、専攻している環境政策の学びを両立できる環境としてドイツを留学先に決めました。

留学の魅力は、その街に住んで学ぶことができることだと思います。ドイツの大学生と一緒に食堂でご飯を食べる、地元の人たちと同じスーパーで買い物をする。そんな当たり前の生活から、ドイツ人の人柄やドイツ文化の背景を知りました。エアランゲン大学には世界中から留学生が来ています。留学先でしか出会えない多様な仲間たちと日常的に関わり、学問に真摯に向き合う姿に刺激をもらいながら学ぶことができました。

この冊子をご覧になっている方は、国際学部で学ぶことの楽しみや留学への憧れを抱いていることと思います。留学は選択肢のひとつです。自分の理想や目指すものを叶える方法を、色々な角度から検討してみてください。

十人十色の英語

丹野 美優

✦ セントラル・ランカシャー大学

England
イギリス



私は小さい頃から海外に憧れを持っており、世界各国の図鑑をよく読んでいました。宇都宮大学にも留学がしたいと思って入学しましたが、私が入学した2020年は新型コロナウイルスの流行が始まった年でした。そのため、本当に留学できるのだろうか、もう諦めてしまおうかと思っていたところ、2年次の秋に学内選考の連絡があり、やるしかないと思募しました。

私が留学先を選んだのはイギリスのセントラル・ランカシャー大学で、世界各地からたくさんの学生が学びにきている大学でした。渡航してまもない頃は自分の語学力の自信のなさから話すことを躊躇っていましたが、現地の先生から生まれた国や地域によって英語の発音が違うことはその人の個性で、文法や単語が間違っても通じるよというアドバイスをもらってからは自分から積極的に話しかけられるようになり、学生や先生、現地の方々との異文化交流ができたことは私にとって大事な財産になりました。語学力だけでなく、その土地の文化や日本との違いについても学ぶことができました。

もし留学したいけど迷っているという方は一歩踏み出してみてください。留学した先で大変なことはあるかもしれないけれど、挑戦したこと、それを乗り越えたことは絶対にあなたの力になります。

チェコってどこ？

佐藤 美波

✦ パラツキー大学

Czech
チェコ



交換留学に行く話を家族や友人にすると、必ず聞かれたのは「チェコってそもそもどこにあるの？」という質問です。

私がそんな日本人にあまり馴染みのない国を選んだのは、第一に「学部留学」ができることが理由です。一口に交換留学といっても、提携大学の語学学校へ行くものと、学部に行くものの二つに分かれます。私は英語「の」勉強ではなく、英語「で」勉強したかったので学部留学ができるパラツキー大学を志望しました。

世界中からやって来た留学生と寮で共同生活をし、彼らと授業に参加する生活はとても刺激になりました。時に言語面でつまずくこともありましたが、日本人の少ない留学先ということもあり、積極的に英語で様々な人と関わることで克服しました。留学中に会った友人たちとは、今でもチャットや電話、プレゼントを贈り合うなどしています。

チェコは地理的にヨーロッパの国々へアクセスがとても良いので、留学中に様々な国を訪れました。それでも私は声を大にして「チェコが一番好き」と言えます。なぜか気になる人はぜひ行ってみてください！

自分で切り拓く留学体験

銘苅 実祐

✦ ポンティフィシア・カトリック大学

Peru
ペルー

私はペルーでの留学生活を通して、自分の世界を広げることの大切さを学びました。

到着してからの約2週間は言語の壁に打ちのめされ心から楽しめる心境ではありませんでしたが、母語ではない言語の中で生活するので当然です。私が大切にしていたのは腹を括って勉強することと、下手でもコミュニケーションを諦めないことでした。そうすると3カ月も経つ頃には周りに驚かれるほど話せるようになりました。

言語の壁を越えた先には多くの学びと充実した留学生活が待っています。私の留学先の大学は毎年約200人もの留学生を受け入れており、国際色豊かな大学です。私のシェアハウス仲間もドイツ、フランス、メキシコなどの様々な国から来ており、彼らとの文化トークは家での楽しみの一つでした。現地学生とも積極的に交流していたおかげで誕生日パーティーに呼んでもらったり、地元に行って町を案内してもらったりと興味深い体験もしました。

私が思う交換留学最大の利点は、このように自分の努力次第で留学生や現地の人々などと沢山交流し、行動範囲も知識も広げられることです。これから留学へ行く皆さんも、ぜひ自分の可能性を信じて積極的に自分の世界を広げていってください。

知らない世界へ飛び込もう

和田 彩那

✦ カセサート大学

Thailand
タイ

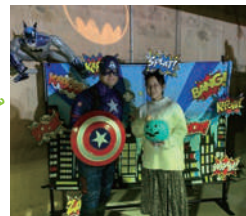
宇都宮大学では学べないことが学びたいと思ったことと、東南アジアに興味があったので、カセサート大学のマーケティング学科に留学しました。大学では、世界各地から来た留学生やタイ人の学生と一緒に授業を受け、休日には友達とご飯や旅行に行ったり、大学の部活に参加して体を動かしていました。また、授業がない日は現地の会社でインターンシップを行っておりました。タイには駐在や現地の会社などで働いている日本人が多くいます。将来海外で働きたいと思っている人には、海外で働く日本人と交流したり、実際に働く経験をする事で、海外で働くイメージを明確にすることができると思います。

チャンスはやってくるものではなく、自らとりにいくものであると思います。留学に興味を持っているなら、ぜひ一歩踏み出してみてください。そして、留学先でも、面白そうと思ったことや自分の成長につながりそうと思ったことはぜひ行動に移してみてください。

かけがえのない経験

伊藤 諒香

✦ ヴィンセンス大学

United States of America
アメリカ

漠然と留学したいという気持ちを持ちながら大学に入学し、アメリカへの留学を決めました。留学の準備期間はとても不安で、想像ができないアメリカ生活にそわそわしていました。しかし、いざ行ってみるととても充実した大学生活を送ることができました。渡航後の数ヶ月は慣れないことが多く苦労しましたが、慣れていくと忙しい毎日を楽しむことができました。コミュニケーションすべてが英語でなされる環境のため以前はどうしても気になっていた文法を気にせず、伝えるということ意識して英語を話すようになりました。時には間違いを指摘してもらい周りの人に助けられながら英語力の向上ができたと感じています。

「留学」というと勉強をしに行くというイメージが強いかもしれませんが、それ以上に外国で生活すること自体がとても貴重な経験になったと実感しています。観光では行かないであろう公共交通機関のない田舎町で、時にはホームステイという形でアメリカの文化・生活を体験できたことが貴重な財産になったと感じています。

成長を実感できる

佐藤 美蘭

✦ 祥明大学校

Korea
韓国

小学生の頃から韓国が大好きだった私は長年、韓国に留学することが夢でした。そのため、1年間行きたいという思いが強く、入学してから準備を始めました。「仕事ができるレベルの韓国朝鮮語力を身につける」という目標をたて、留学生活を送りました。

ソウルでの生活は、刺激的で楽しい濃い1年間でした。ごはんが美味しいことも留学では重要な点です。寮では多国籍な留学生たちと英語で会話し、学校で韓国朝鮮語を使う生活をしていました。おかげで英語力も伸びました。学部の授業では、メティアやトレンドの日韓比較を学びました。日本が大好きな学生が集まる学部なので、日本人はとても歓迎されます。レベルが高い韓国学生と整った環境で勉強できる経験は、交換留学の特権です。学科の部屋で夜中まで勉強してチキンを食べたり、学祭でアイドルを見に行ったりしたことも素敵な思い出です。また、先生の紹介で、韓国の出版社で翻訳のアルバイトをさせていただきました。本当に貴重な機会でしたし、目標が達成できたようで嬉しかったです。毎日の努力と成長を評価してくれた親のような先生方に感謝しています。

語学力はもちろん、人としても大きく成長を実感できるのが留学です。時間が限られているので、色々なことに挑戦したくなります。この経験が大学生のうちに来て本当に良かったと思います。韓国は行きやすい国でもあるので、留学先としておすすめです！

国際学部 学生紹介

学生紹介



安納 稜太

心が惹かれるままに

興味があることは何でも挑戦しよう！と目標を立てていた大学1年生。いざ入学してみるとコロナ禍で、授業もサークルもオンラインという自分が思い描いていた大学生活とは真逆の生活でした。そんな中、参加した学生主体のオンラインイベント、SDGs映画上映会を機に私は環境問題へ関心を抱くようになり、現在は環境政治学ゼミに所属しています。ゼミでは、学生主体を合言葉に、街へ給水スポットを増やすべく市役所や県庁でプレゼンをしたり、市民へ環境問題を身近に感じてもらうために地域のイベントへ出展したり入学当初は想像もしていなかった体験的な学びをしています。

皆さんの中には入学してからどんな分野へ進もうか、留学はしようか等、迷っている方もいるかもしれませんが、でも焦らずに沢山迷ってください。そして少しでもやってみたい、見てみたいと心が惹かれたものには必ず挑戦をしてください。私が1つのイベントをきっかけとしたようにどんな経験でも皆さんの財産となります。是非、大学4年間、自分の心が惹かれるままに様々な世界に飛び込んでみてください。

きっと心から学びたいと思える光る何かと出会えるはずです。



伊藤 大翔

国際学部で見つけた、私の進むべき道

私は、国際的な知識を身につけ、将来は世界を舞台に活躍したいと考え国際学部に入學したもの、入学当初は明確な目標を持てずいました。しかし、学際的で実践的な学びを通して自分の進みたい道を見つけることができました。

大きな転機となったのは、1年次に受講した国際法の講義です。現在も世界各地で続く武力紛争や人権侵害の実態を知り、深く胸を打たれました。そこから、エチオピアでの海外研修や高校生に向けた「子どもの国際人権ワークショップ」の企画運営、トルコでの国際人道法サマースクールへの参加など、学内外の活動に積極的に取り組んできました。さらに、赤十字国際委員会駐日代表部主催の国際人道法ロールプレイ大会では全国準優勝という成果も得ることができました。

現在の目標は、武力紛争や貧困で苦しむ子どもたちの命を守るために国際機関で働くことです。国際学部での学びは、私の夢への確かな一歩となっています。皆さんも自分の夢を見つけ、叶えるために国際学部で学んでほしいかがでしょうか。

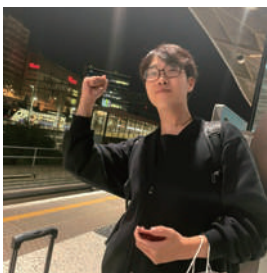


高橋 この葉

逆境も学びに繋げて

入学当時はコロナ禍で、授業がオンラインとなり、大学に行く機会がほとんどありませんでした。家で一人勉強をする中で、大学在学中に海外に行くビジョンが掴めず、目指していた留学を諦めるなど、挫折がありました。それでもこの4年間で何かを得たいと思い、SDGs映画上映会というオンラインイベントの運営チームとして活動を始めました。それをきっかけに所属した環境政治学ゼミでは、学生主体での活動が多く、自由な発想で様々なことに挑戦できる機会がありました。イベントで司会進行を務めたり、ワークショップでファシリテーターを担当したりといった経験は、自分自身の成長に繋がったと思います。また、行政向けに提言を行う中では、「学生ならではの」視点を求める声もあり、今だからこそ声を上げる必要があることを感じました。卒業では自治体新電力をテーマとして、宇都宮市の事例を取り上げ、国際学部ならではのグローバルな視点を持って分析を行うことが出来たと思っています。

私は高校以前まで環境分野に深く関心を持ってきたわけではありませんでしたが、大学で学ぶうちに関心が強まり、生涯を通して学び続けたいと思うようになりました。今は何を学びたいと思っているか悩んでいる人にも、分野を問わず学際的に学べる国際学部で、関心のある分野を探ることが出来るのではないかと思います。どんな状況になっても、挑戦する場所がある学部だと思っています。国際学部で学ぶことで、チャンスを掴んで、学びに繋げて欲しいと思います。



香野 大地

実践的な学びを経験できる場

皆さんは「人権」という言葉を聞いて、どのような印象を抱くでしょうか？私は国際学部に入學した当初、いざ「人権」という言葉について考えてみたとき、その具体的なイメージを掴むことが難しかった記憶があります。そんな私が人権分野に関心を抱いたきっかけは、大学の授業で学んだ知識を生かして取り組む、「子どもの国際人権ワークショップ」に参加したときでした。「子どもの国際人権ワークショップ」は主に高校生を対象に、国際学部附属文化公共センター国際平和と人権人道法研究会が実施しています。

私は1年の後期から、子どもの国際人権ワークショップに携わっています。ワークショップの内容は、架空のシナリオを用いて、紛争下にある子どもたちの権利がどのように侵害されているのか、参加者である高校生たちに人権活動家の立場になって考えてもらい、どのような改善が必要であるか、その支援を決定する役の大学生に支援の必要性和意義を説明するというものです。私も参加者としてワークショップを体験した際には、先輩方が「子どもの権利」について教えてくださり、紛争下の子どもたちが直面する人権侵害を想像することで、具体的に「人権」という言葉を説明できるようになりました。

知識が身につく、さらにワークショップそのものも楽しく、今では学生代表として運営に関わっています。強く印象に残った出来事として、高校生から「人権が身近なものだと実感でき、また国際学部の学びに興味を抱いた」という感想が寄せられました。ワークショップを通じて、「人権」のイメージを掴んでいただき、その一翼を担えたことへの喜びは大きかったです。国際学部に関心を持っている皆さんの中には、ニュースや新聞などで国際情勢を知る際に、理解が難しい話題もありますよね。こうした実践的な学びを通して、これまで難しいと感じていた話題に興味を持つ機会を提供してくれる国際学部は非常に魅力的だと思います。



鈴木 ひとみ

突き詰めることの面白さ

私の専門は国際法です。中でも紛争下で人道的危険に晒されている人々の命や権利を守る国際人道法について4年間学んできました。戦争にもルールがあり、紛争当事者はそれらを守る義務があります。しかし、世界には未だ、目を覆いたくなるような悲惨な状況が存在します。私は机上の学びだけでなく、赤十字国際委員会主催の国際人道法模擬裁判・ロールプレイ大会に出場し、実際の紛争状況を模倣したシミュレーションに挑み、法的議論や被害者への聞き取り調査などを行いました。大会への参加を通じ、学んできた知識を実務に生かすことの難しさを痛感しましたが、チームとして一緒に参加した仲間や支えてくださった指導教員と大学で出会えたことは一生の財産です。また、国際学部での学びと経験が実を結び、記者職の夢も叶えることができました。将来は紛争現場での取材を通じ、助けを求めたくても求められない人々の声になれるような番組を作ることが目標です。国際学部には社会・文化を問わず、様々な領域の学問を学ぶことができる環境も整っていますが、自分の専門を4年間突き詰めることができることも魅力だと思います。

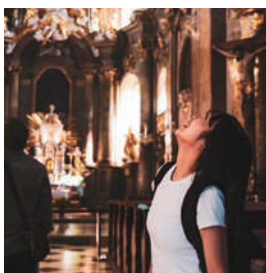
HAGIYA CORREDO
MAGDA

夢への一歩、国連でのインターン

私は高校生の頃から社会貢献をしたく、国際機関で働きたいという夢を抱いていました。そのため、国際学部入学後に、さまざまな分野を学び、少しずつ批判的思考や論点を構築するスキルを磨きました。中でも、国際人道法と国際人権法が武力紛争や時事問題の理解に非常に重要な役割を果たしていることに興味を持ち、国際法の研究室に入りました。そして、オランダでのゼミ合宿では国際機関を訪問し専門家から話をうかがったり、国際人道法の国際大会に出場する機会を得ました。

何よりも、指導教員の勧めで応募した国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）にてインターンシップを経験することができたことは嬉しかったです。UNHCRは国際的な難民保護および人道支援活動を行うために設立された国連機関であり、私がインターンを経験した駐日事務所では日本国内での難民関連の活動やプログラムの実施、政府や非政府組織、企業、市民社会等との連携を通じて、難民問題への理解を深める活動を行っています。私は広報室に所属し、国際法の知識を生かしSNSでの投稿を考えたり、イベントやユース向けの活動に参加したりしました。また、UNHCRの活動に携わる中で、研究室の仲間と培ったチームワークのスキルが、国際的な環境で働く際にも重要であることを実感しました。

これらの経験を通じて、私の遠い夢であった国際機関での勤務が少し近づいた気がしています。将来的には紛争地域での人権保護や人道支援に貢献することを目指しています。国際的な大会にチャレンジし、仲間と共にハードルを乗り越える経験ができ、国連でのインターンに繋がった大学4年間の経験はこれからも私の財産です。国際学部に入學して本当に良かったと思っています。



瀬崎 真奈

暮らしの中で出会った学び

芸術文化と社会学の両方に興味があった私は、その学びを一度に深められる環境を求め、チェコのバラツキー大学への留学を決めました。

大学では、社会科学から歴史・文化を扱う科目まで幅広く受講しました。世界各地から集まった留学生と政治や歴史について語り合った時間は本当に刺激的で、自分の無知を痛感すると同時に、考えが広がっていくのを実感しました。

休日には、美術館や教会を訪れ、街の息吹や人々の暮らしに触れました。友人が案内してくれたクリスマスマーケットや、現地の家庭で過ごしたクリスマスの温かさは、今も思い返すと胸がじんわりします。

留学では、予定通りにはいかない出来事にも出会います。私自身、渡航前には想像もしていなかった怪我で松葉杖生活を送ることになりましたが、その時間の中で人の優しさに助けられ、自分と向き合うきっかけも得ました。振り返ると、あの時期だからこそ見えた景色や気づきが確かにあったと思います。

もし迷いや不安があっても、心が動く瞬間には、自分からその一歩を踏み出してみてください。その経験が、視野や学びを広げるきっかけになります。



蓮井 菜乃花

『視野を広げて興味の先へ』

皆さんは、大学に入って何がしたいですか？興味分野の研究、サークル活動など、様々な考えを抱いて入学すると思います。私はほんやりと、世界が平和になるにはどうすれば良いのか？という興味を持って入学しました。そんな中、私はNGOが主催している社会問題を扱うラジオのインターン、そして学生団体UU-TEAへの所属を決めました。

私たちの身近にある紅茶、実はその半数をスリランカから輸入しています。UU-TEAでは、紅茶に潜む様々な問題に対し、JICAとのプロジェクトや広報を通じてアプローチしています。私はこの活動に加え、国際学部の「海外フィールドワーク演習」や「キャリア実習」でフィールドワークやパートナー組織セワランカ財団でのインターンに参加しました。これらの経験から、困難に見える構造的問題に対して意外な場所からアプローチできること、そして相互理解のためには対話が欠かせないことを実感しました。言語も文化も違う方と交流するとき、ラジオで培った知識だけではない「話す・聞く力」が役立ちます。それは、自分の興味の点と点が線になって繋がった瞬間でした。

大学生活は長いようで短いものです。コスパを求めることは有用ですが、興味のまま学んだことが繋がるとき、学ぶ楽しさの本質が見えるかもしれません。

学生活動紹介



「おもいやり」で子ども達の未来を

ナムチャイ

私たちは、タイ東北部シーサケート県の農村に暮らす子供たちの教育支援を行う国際協力系サークルです。現地の人々は農業で生計を立てていますが、気候により収入が左右され、時には子どもが学校に行くためのお金を準備することが困難になります。そのため、子どもたちが教育を受けられるように奨学金支援を行っています。

毎年2月に支援先を訪問していましたが、コロナ禍により一時中断することになりました。そこでZOOMを活用し、交流や家庭の調査を図りました。企画したレクリエーションを子どもたちが楽しんでいたり現地の状況を伺ったりなど意義深いものになった一方で、現地に行くことができないもどかしさを強く感じました。

現地に行けない今、私たちは海の向こう側にいる人々のために何かができるのでしょうか。「ナムチャイ」とは、タイ語で「おもいやり」を意味します。彼らの気持ちをおもいやり、これから様々な可能性に取り組んでいければと思います。(丸山 浩平)



インドの女性と子どもの自立支援を目指して

宇都宮大学学生国際協力団体
Resource Network

私たちの活動理念は、「地球上に存在する開発ニーズ（リソース）を結びつける（ネットワークする）ことで国際協力を行う」ことです。お金や品物だけでなく、時間や人の想いも「リソース」の概念に含め、結びつけようとしています。

この理念をもとに、現在はインドの女性の自立支援として、彼女たちが一つ一つ手作りした雑貨を日本の各イベントで販売しています。また、オンライン販売も視野に入れ、準備を進めています。そして、これらで得た利益はインド西武にある寄宿舎へ、子どもたちの生活支援として送るのです。さらに、体験型学習の機会として、インドへのスタディーツアーも積極的に行う予定です。国際協力の在り方について悩むこともありますが、これからも多くの方に活動を知っていただき、協力を得ながら、インドの女性や子どもの自立に貢献していこうと思います。(古谷 菜々香)



“UU3Sのカーボンニュートラルへの挑戦”

UU3Sプロジェクト

UU3Sプロジェクトでは、国際学部高橋ゼミが地域の方との対話を通し、持続可能でウェルビーイングな社会構築を目指し活動しています。

まずリフィルうつのみやの活動では、イベントに出展し「ここにも給水スポットあったんだ！マイボトル持ち歩こう」と市民の関心を惹きつける機会となりました。市民の視点をすることで、よりマイボトルや給水スポット拡充に求められることを学びました。

次にエネルギー分野では、NPOの皆様のご協力のもと、教室の二重窓・断熱材を入れる工事が行われました。工事後の部屋は、外気温の影響を受けにくく快適になっています！工事後の室温の計測・観察やさらなる断熱効果の向上に向けた計画にも関わっています。

最後にネイチャーポジティブの活動では、里山保全活動や有機農園訪問を通して、自然の力を活用した環境問題への対処のポテンシャルを肌で感じ、持続可能な社会づくりにどう貢献できるかを考えるようになりました。今後も環境保全に関わる活動へ積極的に取り組んでいきます！

このように、UU3Sプロジェクトには様々な立場の人と接点を持てるという大きな魅力があります！みなさんも私たちと一緒に、環境に優しい社会の実現に向けた取り組みを広げていきませんか？

(UU3S一同)





飢餓と飽食がつながるTable

Table For Two宇都宮

みなさんは「TABLE FOR TWO」という仕組みを知っていますか？ TFTは開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む日本発の社会貢献運動です。私たちTFT宇都宮は、この仕組みを宇大の学食・購買に導入したり、地域のイベントに出店させていただいたりして、毎年約3000食の給食をアジア・アフリカの子供たちに届けています。多くの給食を子供たちに届けたいという想いはもちろん、この仕組みのことをより多くの人に知ってもらいたいという想いを持って活動しています。TFT宇都宮というサークルは、「食」という私たちにとって一番身近な行為から、世界とつながることが出来る、世界について、未来について、そして私たち自身について深く考えることができるサークルであると思っています。小さなことかもしれませんが、その「小さなこと」で変わる何かは絶対にあると思います。皆さんも私たちと一緒に活動してみませんか？（上遠野 亜衣）



Taking the Law out of the Books in Utsunomiya

宇都宮国際平和と司法研究会(UIPJ)

皆さんは「人権」と聞いて何を思い浮かべますか？ 私自身、UIPJに入るまでは、人権と聞いても堅苦しいものや難しいものである、というイメージを持っていました。しかし、人権とは私たち一人一人が持っている権利であり、すべての人の人権が守られるべきなのです。では、紛争下にいる人々や、自分たちの家や生まれ育った国を離れなければならなかった難民の人々の人権は、守られていると言えるのでしょうか。

UIPJでは、そんな人権を含む国際法や国際平和など、大学の授業だけでは学ぶことができないことを考えるきっかけを与えてくれます。また、学外の国際法を用いた大会への参加や、高校でのワークショップの実施など、学んだ知識を基に様々なことに挑戦できるところもUIPJの魅力の一つです。昨年度8月に開催されたKirimli Dr. Aziz Bey国際人道法大会では、これまでの学びを活かし、準優勝を頂くことができました。新しい知識を修得することは大変なこともあります。その自分自身の成長につながり、仲間とのかけがえのない時間となります。（新井 廉）



宇大生の、宇大生による、宇大生のための学修サポート組織

宇大ラーニングサポーター

宇大ラーニングサポーターは、宇都宮大学公式の学生サポート組織として、全ての宇大生が主体的かつ自律的に学びきって卒業できるようサポートしています。大学に入学すると、授業の履修、研究室やゼミ、留学、一人暮らしなど、思いがけず悩みが生まれると思います。そのような悩みや不安に対して、様々な学部や学年のサポーターが同じ学生の目線でサポートをしています。

週1回夕方時間帯には、気軽にお話や相談ができる「おはなし処」を開催しています。「雑談をしたい」「学生生活のちょっとした不安を聞いてほしい」「学修について相談したい」など、どんな内容でも歓迎しています。相談のきっかけづくりとして、イベントも開催しています。特に、ゼミに所属する先輩方から直接話を聞ける「国際学部ゼミ紹介イベント」は、毎年多くの学生にご参加いただいています。

公式SNSにて、「おはなし処」や各種イベントなど様々な活動の様子を発信しているの、ぜひチェックしてみてください。皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

（宇大ラーニングサポーター一同）



卒業後の 進路

取得可能な 資格等について

○教育職員免許状

教職に必要な科目の単位を取得し、教育実習を行うことによって以下の免許状が取得できます。

中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）

○学術英語能力強化プログラム

専門教育において学術面の英語力を強化したい人のために、学術英語能力強化プログラムが開設されています。所定の単位を修得し、所定のGPAとTOEICスコアを取得した人には、学術英語能力強化プログラム修了証書が交付されます。

○初習外国語能力強化プログラム

専門教育において各初習外国語能力の実践的運用能力を強化したい人のために、初習外国語能力強化プログラムが開設されています。所定の単位を修得し、所定のGPAを取得し、所定の検定試験等に合格した人には、初習外国語能力強化プログラム修了証書が交付されます。

○大学院への内部進学

よりよい平和構築への貢献を目指して
—大学院進学という選択—

横山 友輝
宇都宮大学大学院 地域創生科学研究科
社会デザイン科学専攻
グローバル・エリアスタディーズプログラム



私は国際学部を卒業後、宇都宮大学の大学院に進学しました。私が大学院への進学を決意したのは、「紛争の被害に遭う人のためになる仕事がしたい!」と考えたからです。学部4年間の授業や海外での研修を通して平和構築は「気持ち」はもちろん、地域の文化・慣習に関する確かな知識や、法律や理論といったツールを持ち合わせていけばより現実に即した実践的な平和構築ができるということに気づかされました。そこで、実務経験を含めて様々なご経験を有する宇都宮大学の先生方の下でより専門的な知識を得るために進学を選択しました。

大学院生は多くの挑戦の機会をいただきます。例えば私は、スイスの国際・開発研究大学院が主催する開発目標推進国際コンテスト（ジュネーブチャレンジ）に、友人と協力して作成した日本における子どもの権利保障に関するレポートを提出しました。機会を活かすも殺すも自分自身であるという程よい緊張感の中で仲間と協力しながら調査を進めました。このように必死に研究に打ち込むことができるのは大学院生ならではの醍醐味だと思います。

また、大学院での2年間を通じて自分自身と向き合い、長期的な目線でのキャリア形成を考えるようになりました。卒業後は、民間企業への就職が決まっています。その後は再び平和構築分野での挑戦を続けたいと思います。

○大学院進学

宇都宮大学大学院、東京大学大学院、東北大学大学院、横浜市立大学大学院、早稲田大学大学院

進学情報

就職情報

ジャーナリズム・出版	読売新聞社、秋田魁新報社、下野新聞社、幻冬舎ルネッサンス新社、日本放送協会、富山テレビ放送、ケーブルテレビ、日本通信サービス
旅行・観光・ホテル・運輸	ANA、ANAエアポートサービス、ANA成田エアポートサービス、JAL、JALスカイ、羽田空港サービスグループ、空港ターミナルサービス、JR東日本、近鉄エクスプレス、日本交通、日本通運、佐川急便、HIS、日本旅行、JTB、近畿日本ツーリスト、KNT-CTグローバルトラベル、JR東日本東北総合サービス、MT&ヒルトンホテル、アパホテル、ホテルオークラ東京ベイ、星野リゾート、帝国ホテル、その他
情報・サービス	Earth Technology、キャノンITソリューションズ、Sky、TDCソフト、NTTデータマネージメントサービス、NECソリューションイノベータ、伊藤忠テクノソリューションズ、楽天、ワーナー ブラザース ジャパン、ウェザーニューズ、コムチュア、TKC、SHIFT、オークネット、JEMS、日鉄ソリューションズビズテック、ドリーム・アーツ、Revision、日立システムズ、日立ソリューションズ・クリエイト、Enjin、ボードルア、オークネット、JR東日本情報システム、その他
製造・開発	本田技研工業、ケイヒン、日産自動車、オートテックニッパージャパン、スズキ、SUBARU航空宇宙カンパニー、サンデン、ビューテック、キリウ、TDK、YKK、アイリスオーヤマ、プラス、キャノンメディカルシステムズ、コクヨ、日本信号、テルモ、ニチベイ、日新ホールディングス、JT、キューピー、ブルボン、山崎製パン、日本食研、天鷹酒造、東南アジア漁業開発センター、その他
金融・保険	東邦銀行、福島銀行、常陽銀行、筑波銀行、足利銀行、群馬銀行、長野銀行、八十二銀行、三井住友信託銀行、独立行政法人 中小企業基盤整備機構、その他
卸売・小売	オリンパスマーケティング、キャノンマーケティングジャパン、JA全農ミートフーズ、リコージャパン、レスタグループ、伊藤忠メタルズ、中外食品、三井食品、三井物産、三喜、巴商会、ニトリ、日立建機日本、オークネット、神鋼商事、東京産業、藤井産業、富士貿易、北海道味の素、イオンリテール、ヤマダデンキ、カンセキ、ジーユー、ツルハ、その他
建設・不動産	グランディハウス、旭化成ホームズ、一条工務店、栃木セキスイハイム、フューリアルグリエーション、TOCHU、伊藤忠ハウジング、東急リパブル、NKコンサルティング、東京建物不動産販売、ヤザワコーポレーション、カチタス、日本空港テクノ、リビングライフ、東京都住宅供給公社、その他
教員・教育関連	高校教員（栃木県、大阪府）、東京成徳学園、作新学院、鹿島学園、中学校教員（那須塩原市、大田原市、八千代市、那珂市、沖縄県）、Dok-Mally School、東京早稲田外国語学校、さくら国際日本語学院、成美学園、関西国際学園、職員（宇都宮大学、国際医療福祉大学、岩手医科大学）
公務員	総務省、農林水産省、財務省税関（東京、横浜、門司）、国税庁、厚生労働省、経済産業省関東経済産業局、原子力規制庁、海上自衛隊、県庁（岩手、福島、茨城、栃木、長野、山口）、東京都特別区、市役所（旭川、三沢、水戸、筑西、古河、宇都宮、小山、足利、さいたま、上尾、秦野、小千谷、南城）、県警（栃木、埼玉）、埼玉東部消防組合消防局、その他
その他	日本赤十字社、特定法人WE Lgee、海外産業人材育成協会、エン・ジャパン、マイナビ、ディスコ、フレックス、パソナグループ、とちぎ未来づくり財団、福島連携復興センター、栃木県若年者支援機構、Z会、早稲田アカデミー、河合塾マイナビ、アカデミー、東京日本語研究所、ベネッセスタイルケア、ハッピーライフケア、国立病院機構北海道東北グループ、埼玉県済生会川口総合病院、社団 KNI 北原国際病院、その他

就職情報



福原 玲於茄

JICAアフリカ部アフリカ第一課

私が所属するJICA（国際協力機構）は、国際協力を通じて開発途上国と日本の課題解決に取り組む日本の公的機関です。途上国の発展を支えるプロジェクトの形成・管理が主な業務で、教育・医療・環境・インフラなど幅広い分野で活動しています。現地の人々と協働しながら成果を生み出していくことが、JICAの仕事の大きな特徴です。

私自身、大学・大学院時代には藤井広重ゼミ（国際法ゼミ）で国際人権法や人道法について学び、世界の学生が集う国際大会に挑戦する機会にも恵まれました。異なる背景をもつ人々と議論し、相互理解を図る力、そして挑戦する力は、これらの経験を通して培われ、現在の業務にも大いに生かされています。多様な選択肢の中から自分の関心を見つけ、それに本気で取り組める環境があること、そして失敗から学べる機会が多いことは国際学部の大きな魅力です。ぜひ多様な挑戦を通じて、自分の強みを発見してください。皆さんの未来が大きく広がることを願っています。

Messages for you

各界の第一線で活躍する、宇大の卒業生をご紹介します！

菊池 蓮

株式会社 読売新聞社

私は大学卒業後、読売新聞社に入社し、現在は秋田支局で行政や選挙の取材を担当しています。大学で目まぐるしく変わる国際情勢や、国際的な価値観から見た日本の地域社会のあり方などを学び、社会や人々の暮らしの最前線で仕事をしたいと、記者を志しました。

大学時代は、世界から見た日本の地域社会に興味を持ち、世界遺産登録で社会が変わっていった東京都小笠原村の事例などを学びました。卒業研究では、地域の人々にオンラインで聞き取り調査を行い、時代とともに変化する離島の文化を考察しました。コロナ禍もあり、現地に行くことはできませんでした。が、地域の人々から話を聞く経験は、今の取材にも役立っています。

国際学部では、世界情勢や各国の文化はもちろん、日本の地域社会や、国際的な視点から見た日本のあり方など、多種多様な知識を学ぶことができます。分野を問わず、講義に興味を持ったことを突き詰めて、実りある大学生活を送って下さい。





原 一貴

Y K K株式会社

開発途上国への国際協力に関心を持ち、語学と実践的な講義が充実した国際学部へ進学を決めました。大学時代は、座学に加え、エチオピアでの政府開発援助事業にインターンとして参加するなど現場での活動に積極的に取り組みました。学問的・実践的な学びを通し、文化背景の異なる方々と共に物事を遂行する力を培ったと考えます。

現在はメーカーに就職し、ベトナムに駐在。ベトナム、カンボジア、ミャンマーの3か国を事業領域とし、7か国籍のスタッフと協働しています。マネージャー兼営業担当として、語学力・論理的思考力・傾聴力が求められるこの職務に、大学時代の学びが活かされています。自社の売上を伸ばし、現地の雇用を生み、生活向上に繋げる。この「巡環」を回すことが、学びの先に見つけた私なりの社会貢献の在り方です。

「寧ろ鶏口と為るとも、牛後と勿るべし。

未来の国際学部の皆さんへ、個性と主体性を大切に果敢に挑戦して下さい。



山崎 彩貴

株式会社SUBARU 航空宇宙カンパニー

私は現在、航空機メーカーで働いています。SUBARUといえば自動車の印象が強いかもしれませんが、私は宇都宮にある航空宇宙領域で、主に工場のエネルギー管理や契約調整、CO₂削減計画の作成を行っています。研究室活動での年代を超えた出会いが今の仕事のきっかけです。大学時代に環境問題を学んだことも現在の仕事につながっており、未来を考える難しさはありますが、自分の関心を通じて社会と関わるやりがいを感じています。航空機については日々勉強中ですが、飛行機やヘリコプターが飛ぶ姿を見ると胸が高鳴ります。

入学当初はなかなか一歩を踏み出せないこともありましたが、国際学部で挑戦する仲間や多様な価値観に出会ったことで、視野とコミュニケーションの幅が広がり、自ら進む勇気を得ました。そのおかげで、研究室やサークル活動に積極的に参加し、多くの人のつながりや豊かな経験を得ることができたと感じています。皆さんにも、多くの刺激を受け、年代や地域を超えた多様なつながりを築きながら、学生生活を楽しくいただけたらと思います。これからの皆さんの挑戦が空気に羽ばたき、豊かな未来が広がっていくことを願っています。



小林 安美香

厚生労働省 福島労働局 いわき公共職業安定所

私は現在、国家公務員として厚生労働省福島労働局ハローワークいわきの雇用保険適用課で働いています。仕事内容は主に、窓口での申請書の受理、雇用保険に関する相談等を行っています。大学生のうちあまり関わりがない雇用保険ですが、社会人として働き出すとほとんどの人が加入することになる制度です。そのため、事業主の方や個人の方など様々な人々が窓口を訪れます。

そんな業務を行っていく中で、国際学部で身につけた力が役に立っていると感じます。私は大学時代に1年間の交換留学で韓国の大学に行き、様々な国の人々と関わることを通して、相手の立場に立って考える力が身につきました。また、留学中には韓国語の習得のために、積極的に現地の学生と関わることでコミュニケーション能力が身についたと感じます。現在の窓口業務において、今まで培った力を元に窓口を訪れた人に寄り添った対応を心掛けています。

国際学部は、なんでも学べて何にでもなれる学部だと思います。みなさんが自分のやりたいことを見つけ、楽しめ、笑いのある大学生活を送れることを願っています。



中野 零士

天鷹酒造株式会社

私は現在栃木県の酒蔵で商品の出荷作業を担当しています。大学で日本と世界の関わりについて学ぶ中で、世界に向けて日本の良さを発信できる伝統文化の一つである「日本酒」に興味を持ち志望しました。

大学時代は太平洋戦争を中心とした日本の近現代史に関心があり、授業以外にもそれに関係する政治、歴史、文化などさまざまな分野の書籍に触れました。また、アルバイトで貯蓄をしてハワイや沖縄、広島等重要な史跡を実際に訪れて見聞を深めました。こうした経験を通じて、一つの物事を様々な視点から捉えることができるようになったと思います。

宇都宮大学には全国、世界の各地から様々な学生が集まります。このような多様性の溢れる空間に身を置くことは、皆さんの学びが深まっていくのを後押ししてくれるのではないのでしょうか。四年間の大学生活は長いようであらう間に過ぎてしまいます。皆さんがこの限られた時間を自らの意思で実りあるものにしていただけることを応援しています。



藤田 実央

一般財団法人成田国際空港振興協会

私は現在、一般財団法人成田国際空港振興協会、成田空港のインフォメーションスタッフとして働いています。初めて成田空港を利用したのは、大学2年生で韓国の釜山へ交換留学をしたときでした。私にとって初めての海外だったので、とても不安だったことを覚えています。

今はその成田空港でインフォメーションスタッフとして、当時の私と同じように海外に行く人や、日本に来た外国人の対応を行っています。大学時代に学んだ英語や韓国語はもちろんのこと、サークル活動やアルバイトなどを通して培ったコミュニケーション力が活かされていると感じます。

大学生活で学んだことや培った経験は、就職活動だけでなく社会人になってからも、きっとみなさんの糧になると思います。今は興味のあることに積極的にチャレンジし、大学生活をいっぱい楽しんでください！



羽根田 彩李

日ノ丸自動車株式会社

大学卒業後、地元・鳥取県の日ノ丸自動車株式会社に就職しました。ANAと総代理店契約を結んでいる会社であるため、私は現在鳥取空港のグランドスタッフとして働いています。地方の小さな空港ではありますが、地域の方々に密着した安心安全な空の旅のお手伝いをしています。

大学で学んだ事を地元で活かされたらという思いからこの仕事を選びましたが、実際に国際学部での学びが生きていると感じることが多々あります。日本語が分からず不安そうな外国籍のお客様と外国語で手続きをし、最後に笑顔が見えた時に私も嬉しくなりました。お手伝いが必要なお客様が何を希望されているのか、色々な可能性を考えて行動したことで、感謝の言葉をいただいたこともあります。国際学部で様々な人、価値観、文化に触れたこと、交換留学を通して言語の習得はもちろん、外国人としての生活を体験し幅広い視点を得たことは、現在の仕事をする上でとても大切なことだと感じています。

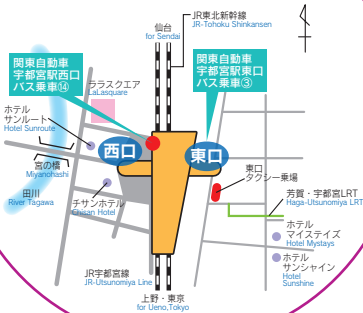
国際学部だからこそ経験できることがたくさんあります。積極的に取り組み、ぜひ自分の可能性を広げてみてください。

アクセス

宇都宮市内 Utsunomiya-shi



JR宇都宮駅周辺 around JR-Utsunomiya station



■ 宇都宮大学国際学部（峰キャンパス）へのアクセス

- 関東自動車：(真岡、益子、星の杜中学校・高等学校、ベルモール行など)
JR宇都宮西口バス乗り場、⑭番で乗車約10分
「宇都宮大学前」下車
東武宇都宮駅東口バス乗り場で乗車、約25分
「宇都宮大学前」下車
- 関東自動車：(卸団地循環線 ベルモール行)
JR宇都宮駅東口バス乗場③から乗車。約10分
「宇都宮大学前」下車
- タクシー：JR宇都宮駅東口乗場から約5分
東武宇都宮駅西口乗場から約15分

■ 宇都宮へのアクセス

- 電 車：

JR東北新幹線	東京から	約1時間
	仙台から	約1時間20分
JR上野東京ライン・宇都宮線	東京から	約2時間
JR湘南新宿ライン	新宿から	普通 約1時間50分 快速 約1時間15分
東武鉄道	浅草から	約1時間40分 (新栃木で乗り換え、浅草～新栃木間特急利用の場合)
- 自動車：東北自動車道

東京から	鹿沼ICまで	約130km
	上三川ICまで	約130km (北関東自動車道利用)
仙台から	宇都宮ICまで	約230km

<https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/>



宇都宮大学 国際学部

検索



宇都宮大学国際学部ホームページは学部紹介や教員インタビューなど充実した情報満載！ぜひ一度ご覧ください！

宇都宮大学国際学部 2026
Utsunomiya University School of International Studies 2026
2026年5月発行（記載内容は2026年4月1日現在）

企画・制作
宇都宮大学国際学部入学試験・広報委員会

発行
宇都宮大学国際学部
〒321-8505 宇都宮市峰町350
TEL：028(649)5164 FAX：028(649)5171



宇都宮大学国際学部

UTSUNOMIYA
UNIVERSITY
MOBILE SITE

TEL:028(649)5164 FAX:028(649)5171
<https://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/>